

元総社蒼海遺跡群（15）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2008. 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



A. 空撮（北を望む）



B. 空撮（上が北）

図絵2



C. 空撮（南方を望む）



D. 空撮（西方を望む）

元総社蒼海遺跡群（15）

前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 8 . 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に作られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（15）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果と言えます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんにお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成20年2月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長 砂川次郎

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所 群馬県前橋市元総社町1757—1番ほか3筆

遺 跡 コ ー ド 19A130-15

発 掘 調 査 期 間 平成19年10月6日～平成19年11月26日

整理・報告書作成期間 平成19年11月20日～平成20年2月21日

発 掘・整 理 担 当 者 濑田哲夫（技研測量設計株式会社）

4. 本書の編集は瀬田が行った。原稿執筆はIを梅沢克典（前橋市教育委員会）、他を瀬田が担当した。

5. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】青木好男・新井将夫・市村敬介・岩倉 保・岩倉洋子・梅山節子・遠藤好則・大久保伸太郎・

加賀美紀子・金古 操・神沢昭三・桑原住枝・小和瀬深夏・佐藤和子・白石真知江・関口弘子・

関根清子・高野義孝・高橋賢司・竹内八重子・武田茂子・島田邦利・田島秀光・高橋千秋・

戸張泰義・中島エイ子・西鴻 登・橋田文夫・横田久雄・丸山文江・森田恵子・矢内司郎・

矢内ヒロ子・儘田ミエ子・吉野智貴

【整理作業】大友徳恵・桜井美佳・須田公恵・堀越晴子・山下雅江・山本洋子

6. 発掘調査で出土した遺物および、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

7. 以下の諸氏・機関に有益なご指導・御協力を頂いた。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

橋崎修一郎・元総社町自治会・須賀工業株式会社

凡 例

1. 押図中に使用した北は、座標北である。

2. 押図に建設省国土地理院発行の1:200,000、1:25,000地形図を使用した。

3. 遺構、及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡 B…掘立柱建物跡 W…溝跡 I…井戸跡 DB…土壤墓

D…土坑 P…ピット X…その他

4. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 住居跡・溝跡・井戸跡・土坑・ピット…1:60、1:80 罐・土壤基…1:30 全体図…1:200

遺物 土器・鉄製品…1/3 瓦・石製品…1/5

5. 計測値については、() は現存値、[] は復元値を表す。

6. セクション注記の記号は、粘性・縫りの順で示し、それぞれ以下のように表現する。

○非常に縫り・粘性あり ○縫り・粘性あり △縫り・粘性ややあり ×縫り・粘性なし

7. 遺構・遺物実測図の記号・網掛けは、次のとおりである。

●上部器・須恵器 ○灰釉陶器 ■瓦 △鉄製品 ▲石製品 一・一床硬化範囲（遺構）・施釉範囲（遺物）

■■■：遺構構築面 ■■■■：還元焰焼成の須恵器断面 ■■■■■：灰釉陶器の断面

8. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（株名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・株名山、6世紀中葉）

Hr-FA（株名ニッ岳渋川テフラ：供給火山・株名山、6世紀初頭）

As-C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半～中葉）

目 次

図 絵 1

図 絵 2

序.....	i
I 調査に至る経緯.....	1
II 遺跡の位置と環境.....	
1 遺 蹟 の 位 置.....	1
2 歴 史 的 環 境.....	1
III 調査の方針と経過.....	
1 調 査 方 針.....	7
2 調 査 経 過.....	7
IV 基 本 層 序.....	11
V 遺 構 と 遺 物.....	12
VI ま と め.....	27
付 編.....	61

挿図目次

- Fig. 1 元総社蒼海遺跡群位置図
Fig. 2 周辺遺跡図
Fig. 3 グリッド設定図
Fig. 4 全体図
Fig. 5 基本層序
Fig. 6 時期別の竪穴住居跡、溝跡配置図
Fig. 7 H-1・2号住居跡
Fig. 8 H-3・7号住居跡
Fig. 9 H-4号住居跡
Fig. 10 H-5・6号住居跡
Fig. 11 H-8号住居跡
Fig. 12 H-9・10・12号住居跡
Fig. 13 H-11号住居跡
Fig. 14 H-13・14号住居跡
Fig. 15 H-15号住居跡
Fig. 16 W-11・12・19・20号溝跡
Fig. 17 W-1・4・6・14・17・18号溝跡
Fig. 18 W-2・3・7・8・10・16号溝跡
Fig. 19 W-5・9・13・15号溝跡
Fig. 20 土坑(1)
Fig. 21 土坑(2)
Fig. 22 土坑(3)
Fig. 23 土坑(4)
Fig. 24 土壙墓、井戸、掘立柱建物、ビット(1)
Fig. 25 ビット(2)
Fig. 26 ビット(3)
Fig. 27 ビット(4)
Fig. 28 ビット(5)
Fig. 29 ビット(6)
Fig. 30 H-1号住居跡出土遺物
Fig. 31 H-3・4号住居跡出土遺物
Fig. 32 H-5号住居跡出土遺物
Fig. 33 H-2・6・7・9・12号住居跡出土遺物
Fig. 34 H-8・10・14号住居跡出土遺物
Fig. 35 H-11号住居跡出土遺物
Fig. 36 H-13号住居跡出土遺物
Fig. 37 H-15号住居跡、W-20他出土遺物

図版目次

- PL. 1 空撮(1).....65
PL. 2 空撮(2).....66
PL. 3 全景・スナップ.....67
PL. 4 竪穴住居跡(1).....68
PL. 5 竪穴住居跡(2).....69
PL. 6 竪穴住居跡(3).....70
PL. 7 竪穴住居跡(4).....71
PL. 8 溝跡.....72
PL. 9 溝跡・土壙墓・土坑(1).....73
PL. 10 土坑(2).....74
PL. 11 土坑(3).....75
PL. 12 出土遺物(1).....76
PL. 13 出土遺物(2).....77
PL. 14 出土遺物(3).....78
PL. 15 出土遺物(4).....79

表目次

- Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表.....5～6
Tab. 2 住居跡一覧表.....19
Tab. 3 掘立柱建物跡等計測表.....19
Tab. 4 土壙墓計測表.....19
Tab. 5 井戸跡計測表.....19
Tab. 6 溝跡計測表.....20
Tab. 7 土坑・ビット計測表.....21～23
Tab. 8 遺物観察表.....24～26

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、8年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成19年5月7日付けで、前橋市長・高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成19年9月12日付で前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。調査団は民間調査機関である技研測量設計株式会社と、9月21日付けで業務委託契約を締結し、10月6日より現地での発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（15）」（遺跡コード：19A130-15）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(15)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置 (Fig. 1)

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比較3m～5mを測り、段丘崖上は高様な台地で、桑畠を主とした畑地として利用してきた。

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。また、調査地より西0.4kmには関越自動車道が南北に走る。さらに、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っており、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。

2 歴史的環境 (Fig. 2) 遺跡名の後の（ ）付数字は、Fig. 2及びTab. Iの遺跡番号と対応する。

本遺跡地の周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府。さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連絡と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

繩文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東（15）・産業道路西遺跡（16）や上野国分僧寺・尼寺中間地城（20）が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少なく、当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡（18）、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地城（20）や桜ヶ丘遺跡（33）、下東西遺跡（23）等に散見されるだけである。

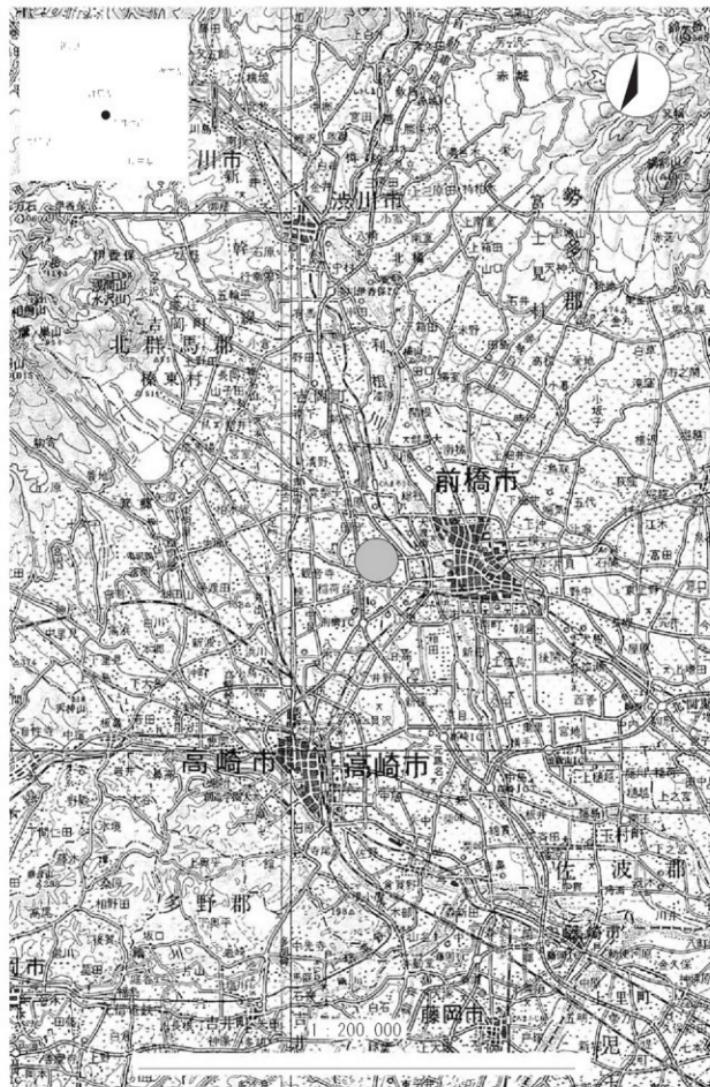


Fig. 1 元總社舊海道跡群位置図

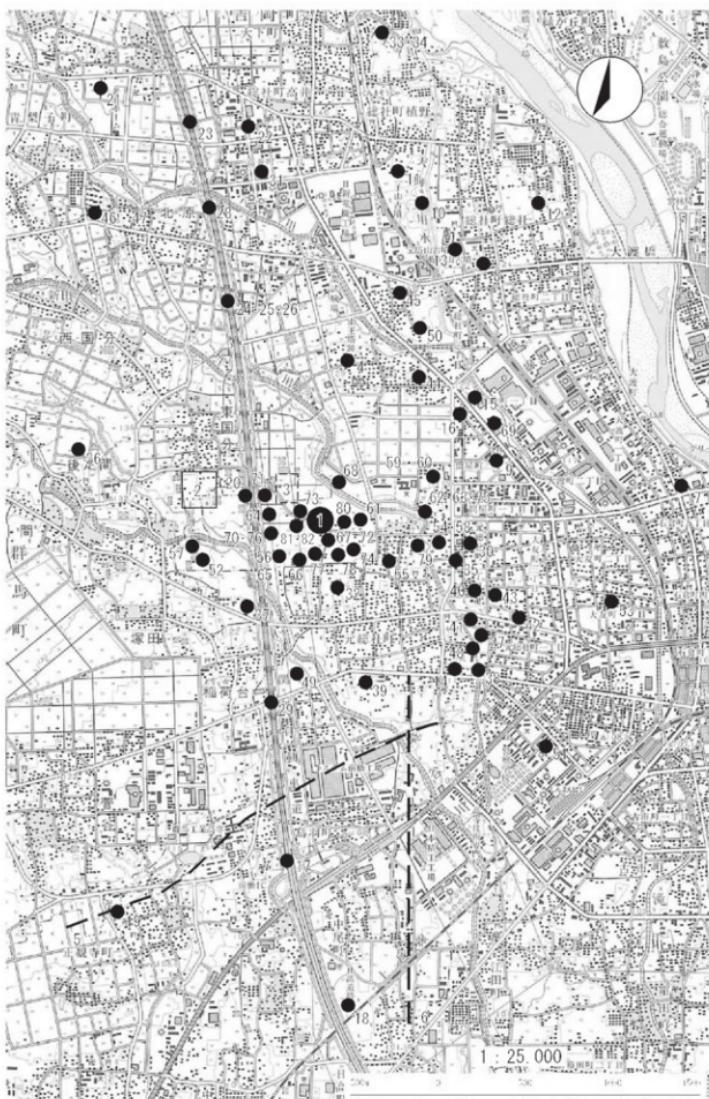


Fig. 2 周辺遺跡図

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北側に位置する總社古墳群が挙げられる。古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳（12）、川原石を用いた積石塚である王山古墳（7）、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の二子山古墳（11）、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳（10）、県内の古墳の中でも最終末期のものと考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳（13）、蛇穴山古墳（8）がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡（放光寺）（4）がある。この寺の塔心礎や石製鶴尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、山王庵寺を上野地域で治めていた「上毛野氏」の氏寺、總社古墳群を「上毛野氏」一族の埋葬地と考えられ、この地が「軍評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と並存しながら機能していた様子が窺える。また、水田跡は、總社閑泉明神北遺跡（54）や元總社明神遺跡（27）、元總社北川遺跡（68）等、牛池川付近から検出されており、この時代の生産域を想定する資料となっている。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、國分寺（2）、國分尼寺（3）が建設されるなど、政治的・経済的・文化的の中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、本遺跡周辺に置かれたとされる。

この国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元總社小学校校庭跡（14）や、「國厨」・「曹司」・「國」・「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元總社寺田遺跡（48）、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元總社宅地遺跡（55）がある。また、大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡（30）と南北方向の溝跡が検出された元總社明神遺跡（27）の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに、元總社小見内III遺跡（61）及び元總社小見内IV遺跡（67）からは、國分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝跡が検出されている。一方、元總社小見内III遺跡（61）からは官人の用いたと考えられる円面鏡、巡方（腰帶具）も出土し、国府について考える上で貴重な資料となっている。

國分寺（2）は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的な調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。國分尼寺（3）は昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ、伽藍配置が推定できるようになった。その後平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団が南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。また国分僧寺・尼寺周辺では、閑越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地点地域（20）では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1km南の地点にN=64° E方向の東山道（国府ルート）（5）があることが推定される。また、日高道（6）は、日高通跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したルートを推定したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元（1429）年、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有する城として県内でも最古級に位置づけられ、さらに県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府との関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた總社・元總社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される本遺跡周辺の地区は注目される地域の一つである。元總社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。この調査により、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

*Ⅱは「元總社蒼海遺跡群（5）」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年 P 1～2「II 遺跡の位置と環境」を転載したものである。

Tab. 1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元總社蒼海遺跡群（I5）	2007	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅基壇
4	山王庵寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6C中）
8	蛇穴古墳	1975	古墳：方墳（8C初）
9	福荷山古墳	1988	古墳：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7C初）
11	總社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6C末～7C初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7C末）
14	元總社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	礪文：住居跡
16	産業道路西遺跡		礪文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：木田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具・平安：条里制水田跡
19	正般寺遺跡 I～IV（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡・古墳；住居跡、奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地（事業団）	1980～83	礪文：住居跡・配石構造・弥生：住居跡・方形周溝墓・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群Ⅲ	1980	礪文：ビット・奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	礪文：屋外埋甕・弥生：住居跡・古墳；住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・櫛列・中世：溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
25	国分境II遺跡	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
26	国分境III遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・中世：土壤墓
27	元總社明神遺跡 I～III	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・廻廊・奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形・中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
28	北原遺跡（群馬町）	1982	礪文：土坑・集石造構・古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
29	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・石造場跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
30	閑泉橋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
31	桜木遺跡・II遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
32	草作遺跡	1984	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：井戸跡
33	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
34	總社桜ヶ丘遺跡・II遺跡	1985、87	奈良・平安：住居跡
35	閑泉橋南遺跡	1985	古墳：住居跡・奈良・平安：溝跡
36	後丸間遺跡 I～III（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：道路状遺構
37	塙田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
38	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
39	天神遺跡・II遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
40	星敷遺跡・II遺跡	1986、95	古墳：住居跡・平安：住居跡・中世：廻廊・石敷遺構
41	大友星敷 II・III遺跡	1987	古墳：住居跡・平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
42	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
43	堀越II遺跡	1988	平安：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
44	昌榮寺廻向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
45	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：廻跡
46	熊野谷遺跡	1988	繩文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
47	熊野谷II・III遺跡	1989	平安：住居跡
48	元総社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎巾・墨書き土器・中世：溝跡
49	弥勒遺跡・II遺跡	1989, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡
50	大原數遺跡I～VI	1992～2000	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡・地下水式土器・溝跡
51	元総社稻葉遺跡	1993	繩文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
52	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
53	大友宅地遺跡	1998	平安：水田
54	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：墓跡・水田跡・溝跡・中世：溝跡
55	元総社宅地遺跡I～23トレシナ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構・中世：溝跡・近世：住居跡・五輪塔・楓類
56	元総社小見遺跡	2000	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
57	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・墓跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
58	総社閑泉明神北II遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡
59	総社甲縚荷塚大道東西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：墓跡・近世：溝跡
60	総社甲縚荷塚大道西II遺跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
61	元総社小見内III遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：掘立柱建物跡・溝跡
62	総社甲縚荷塚大道西III遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・溝跡
63	総社閑泉明神北III遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
64	元総社小見II遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
65	元総社小見II遺跡	2002	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・道路状遺構
66	元総社草作V遺跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
67	元総社小見内IV遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：土壤墓・掘立柱建物跡・溝跡
68	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・墓跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
69	福荷塚東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・竪構築材探査痕・井戸跡
70	元総社小見IV遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
71	元総社小見V遺跡	2003	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
72	元総社小見内VI遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：井戸跡
73	元総社小見内VII遺跡	2003	繩文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：墓跡・溝跡
74	元総社小見内VIII遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：堅穴状遺構
75	総社甲縚荷塚大道西IV遺跡	2003	古墳：墓跡・中世：墓跡
76	元総社小見VIII遺跡	2004	繩文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
77	元総社小見内IX遺跡	2004	奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
78	元総社小見内X遺跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土探査坑・金片・中世：溝跡・土壤墓
79	総社閑泉明神V遺跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
80	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：周溝状遺構・土壤墓
81	元総社蒼海遺跡群（16）	2007	報告書作成中
82	元総社蒼海遺跡群（18）	2007	報告書作成中

* 調査年度の（ ）は調査開始を、遺跡名の（事業団）は（業財群馬県埋蔵文化財調査事業団）を表す。

III 調査の方針と経過

1 調査方針 (Fig. 3)

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約1,410m²である。調査地のほぼ中央部では、現道路が北西～南東方向に通り、調査区が二分割されている。このため、西半部を15A区、東半部を15B区と呼称した。グリッド座標については、2000年の上野国分尼寺跡確認調査から用いている4mピッチのものを継続して使用し、西から東へX-89、X-90、X-91…、北から南へY-111、Y-112、Y-113…となる。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

公共座標については、以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群 (15) 測点 X100・Y115

旧日本測地系 X = +43540.000 Y = -71800.000

世界測地系 X = +43894.906 Y = -72091.755

検出が予想される主な遺構は古墳～奈良・平安時代の住居跡・溝跡・土坑・中世の溝跡・土壤墓等であり、調査は①表土掘削（原則としてバックフォー0.7m使用）、②遺構確認（主に動廉）、③方眼杭等設置、④遺構掘り下げ、⑤遺構精査、⑥測量、⑦全景写真撮影の順で行うこととした。このうち遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、トータルステーションによる測量を主に使用し、平板・造り方測量を併用している。遺構図は原則として1/20、住居跡・土壤墓は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録しながら収納した。包含層の遺物は台帳への記載を行い、グリッド単位で収納した。

2 調査経過 (Fig. 5)

本遺跡の発掘調査は、平成19年9月21日付けで業務委託契約を締結し、10月6日より現地での調査を開始した。重機による表土掘削は10月6日～10月15日に行い、15A区ではAs-B軽石混土層を取り除き、As-C・Hr-FP軽石を含む黒褐色土の上面で遺構を確認した。15B区では現代の削平、擾乱が深くまで及び、As-B混土は検出されず、As-C・Hr-FPを含む暗褐色土、或いは微量のスコリアを含む暗褐色土上面での遺構確認となっている。

遺構確認作業は10月9日から、遺構精査は10月11日から開始した。10月15日には方眼杭等を設置し、以降、図面作成作業を行った。

検出遺構は奈良・平安時代の竪穴住居跡15軒、古代の掘立柱建物跡1棟、古代・中世～近世の溝跡20条、井戸跡2基・土坑81基・ビット221口・ビット組1棟、中世の土壤墓1基である。竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土壤墓は15A区からの検出であり、15B区では埋土にAs-Bを含むビット・土坑・井戸跡が、主体的である。溝跡は両区で確認されている。出土遺物は縄文時代の土器・石器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・金属製品・石製品、中世・近世の陶磁器・炻器・瓦等で、コンテナ約10箱である。

11月12日にラジコンヘリコプターによる調査区全景の航空写真撮影を行い、その後、竪穴住居跡の掘りかた調査、基本順序のトレーニング調査等を実施した。調査区埋め戻し作業は11月20日～11月26日である。

整理・報告書作成作業は11月20日より開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真的整理・収納、報告書の図版作成・原稿執筆・編集作業を行い、平成20年2月21日までにすべての作業を終了した。

尚、土壤墓に関しては、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の橋崎修一郎氏より、現地調査時に御助言を頂き、出土人骨の分析結果は本報告書の付編としてP27～28に掲載している。



Fig. 3 グリット設定図

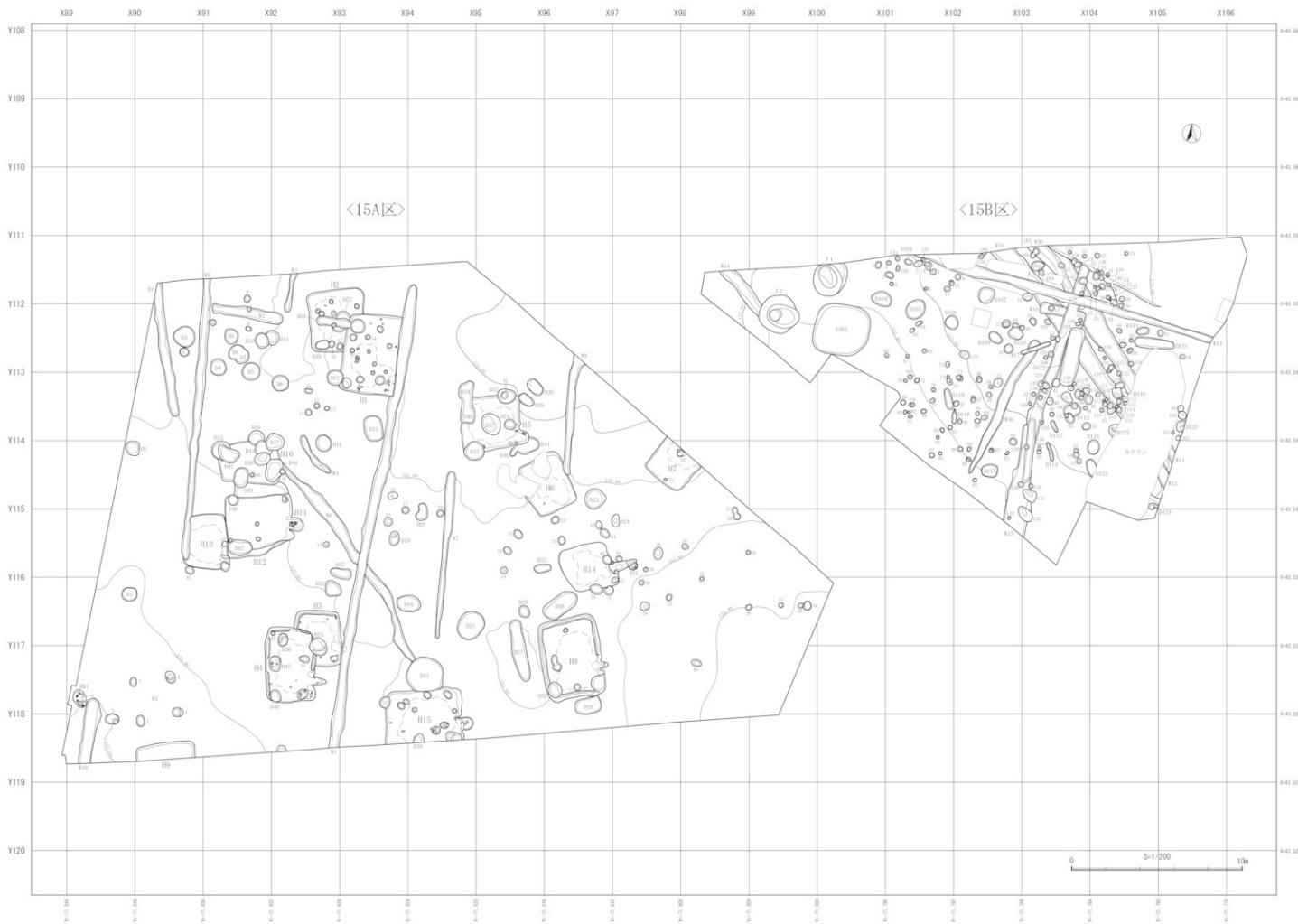


Fig. 4 全体図

IV 基本層序 (Fig. 5)

本調査地は、現道路を挟んでいるため、西半部を15A区、東半部を15B区と呼称している。現地表の標高は123.5~124.2mを測る。15A区の南部では、海拔122.8m前後でAs-Bを多量に含む黒褐色土を、海拔122.6m前後でAs-C-Hr-FPを20~30%含む黒褐色土を検出している。15B区では地表下約1.0mまで擾乱が及び、As-B混土は検出されず、As-C・Hr-FPを含む暗褐色土、或いは微量のスコリアを含む暗褐色土の上面で遺構を確認した。15A区では海拔122.3m以下、15B区では海拔123.1m以下が総社砂層と考えられる。

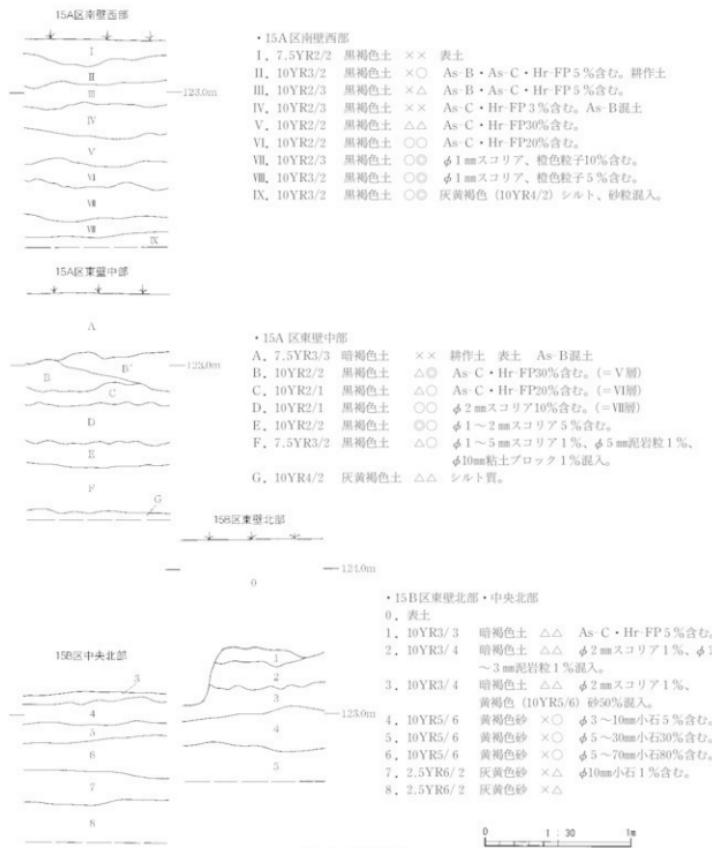


Fig. 5 基本層序

V 遺構と遺物

本遺跡で検出された遺構は、堅穴住居跡15軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡20条、井戸跡2基、土塙墓1基、土坑81基、ピット221口、その他1棟である。以下、各遺構について概要を記していくが、遺構の名称は、現地調査時に付したものを使用する。堅穴住居跡の掘り方調査で検出した、所謂「床下土坑」については、本報告書では土坑・ピット跡の項目に含めている。出土遺物の記載については Tab. 8 を参照されたい。尚、色調の記載は「新版標準土色版」農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修1976年を使用した。

1. 堅穴住居跡 (Tab. 2)

H-1号堅穴住居跡 (Fig. 7・30)

位置 X-93, Y-112・113グリッド 主軸方位 N-99°-E 面積 (14.88)m² 形状等 長方形。東西(3.18)m、南北4.68m、壁現高10.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央～南部が硬化する。 罂 東壁に設置されていたものと考えられるが、W-5号溝跡により削平される。 貯藏穴 南西部で検出した土坑が貯藏穴となろうか。 重複 H-2号住居跡と重複し、新旧は本遺構→H-2の順。 時期 墓土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 土師器29点、須恵器85点、灰釉陶器4点、瓦7点が出土している。そのうち須恵器碗2点、須恵器壺2点、須恵器皿2点、土師器土釜1点、瓦2点を図示した。

H-2号堅穴住居跡 (Fig. 7・33)

位置 X-92・93、Y-111・112グリッド 主軸方位 N-87°-E 面積 [11.76] m² 形状等 長方形。東西3.25m、南北3.62m、壁現高9.5cmを測る。 床面 平坦な床面。中央部や西側が硬化している。 罂 東壁に設置されていたものと考えられるが、H-1号住居跡により削平される。 貯藏穴 不詳。尚、掘り方の調査時に、中央部においてD-52号土坑を検出(床下土坑)。 重複 H-1号住居跡と重複し、新旧はH-1→本遺構の順。 時期 墓土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 土師器6点、須恵器10点、瓦1点が出土している。そのうち須恵器碗1点を図示した。

H-3号堅穴住居跡 (Fig. 8・31)

位置 X-92・93、Y-116・117グリッド 主軸方位 N-91°-E 面積 8.96m² 形状等 方形。東西2.74m、南北3.27m、壁現高28.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央部や東側が硬化している。周溝あり。 罂 東壁のやや南から検出されたが、W-5号溝跡により削平され、詳細不明。 貯藏穴 不詳。尚、掘り方の調査時に、中央部においてD-53号土坑を検出(床下土坑)。 重複 H-4号住居跡と重複し、新旧は本遺構→H-4の順。 時期 墓土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 土師器31点、須恵器63点、灰釉陶器2点、瓦3点が出土した。そのうち須恵器壺1点、須恵器皿1点、灰釉陶器碗1点、瓦1点を図示した。

H-4号堅穴住居跡 (Fig. 9・31)

位置 X-91・92、Y-116・117グリッド 主軸方位 N-88°-E 面積 12.83m² 形状等 長方形。東西2.93m、南北4.38m、壁現高25.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央部～東部が硬化している。周溝あり。 罂 東壁のやや南から検出。主軸方向はN-85°-Wであり、全長108cm、最大幅110cm、焚口部幅45cmを測る。両袖には四面を削り出した粗粒凝灰岩を使用している。支脚石にも粗く削った粗粒凝灰岩を使用している。 貯藏穴 罂の南側より検出。西壁際の中央部、南部から検出されたD-45号土坑、D-46号土坑も貯藏穴の可能性がある。尚、掘り方の調査時に、北西部においてD-56号土坑を検出(床下土坑)。 重複 H-3号住居跡と重複し、新

旧はH-3→本遺構の順。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 繩文土器1点、繩文石器1点、土師器58点、須恵器92点、灰釉陶器2点、瓦4点、こも石2点が出土している。そのうち須恵器壺3点、須恵器羽釜2点、灰釉陶器皿1点、瓦2点を図示した。

H-5号竪穴住居跡 (Fig.10・32)

位置 X-94・95、Y-113・114グリッド 主軸方位 N-83°-E 面積 [10.93] m² 形状等 方形。東西3.47m、南北3.15m、壁現高16.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央部が硬化している。 罂 東壁の南端から検出。主軸方向はN-85°-Wであり、全長85cm、最大幅100cm、焚口部幅50cmを測る。南側の袖には四面を削り出した粗粒凝灰岩を使用している。 貯蔵穴 罂の北側で検出したD-54号土坑が貯蔵穴となるか。尚、掘り方の調査時に、中央部においてD-57号土坑を検出(床下土坑)。 重複 D-35・36・37号土坑と重複し、本遺構が古い。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 土師器8点、須恵器23点、灰釉陶器2点、瓦7点が出土している。そのうち須恵器椀2点、須恵器羽釜1点、灰釉陶器椀1点、瓦5点を図示した。

H-6号竪穴住居跡 (Fig.10・34)

位置 X-95・96、Y-114・115グリッド 主軸方位 N-155°-E 面積 9.03m² 形状等 長方形。東西2.77m、南北3.26m、壁現高9.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央～南東部が硬化している。 罂 不詳。 貯蔵穴 不詳。 重複 W-8号溝と重複し、新旧はW-8→本遺構の順。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 繩文土器1点、須恵器12点、瓦1点が出土している。そのうち須恵器壺1点、須恵器椀2点、瓦1点を図示した。

H-7号竪穴住居跡 (Fig. 8・33)

位置 X-97・98、Y-113・114グリッド 主軸方位 N-36°-E 面積 (7.18)m² 形状等 長方形。東西2.62m、南北(2.74)m、壁現高33.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央～北部が硬化している。 罂 不詳。 貯蔵穴 不詳。 重複 なし。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 繩文土器2点、須恵器6点、瓦4点が出土している。そのうち瓦2点を図示した。

H-8号竪穴住居跡 (Fig.11・34)

位置 X-95・96、Y-116・117グリッド 主軸方位 N-80°-E 面積 16.53m² 形状等 長方形。東西3.57m、南北4.63m、壁現高25.0cmを測る。 床面 平坦な床面。中央～南部が硬化している。芯～芯距離3.4mで南北に並ぶ2口のビットが主柱穴となる。周溝あり。 罂 東壁やや南寄りから検出。主軸方向はN-84°-Eであり、全長66cm、最大幅90cm、焚口部幅40cmを測る。 貯蔵穴 罂の南側より検出。尚、掘り方の調査時に、南西部においてD-55号土坑を検出(床下土坑)。 重複 なし。 時期 埋土や出土遺物から8世紀代と考えられる。 遺物 繩文土器1点、土師器18点、須恵器11点、こも石3点が出土している。そのうち土師器鉢1点、須恵器壺1点、須恵器環蓋1点、こも石3点を図示した。

H-9号竪穴住居跡 (Fig.12・33)

位置 X-90、Y-118グリッド 主軸方位 N-85°-E 面積 (3.44)m² 形状等 長方形か。東西3.44m、南北(1.00)m、壁現高40.0cmを測る。 床面 平坦な床面。 罂 不詳。 貯蔵穴 不詳。 重複 なし。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 須恵器13点、瓦1点を出土している。そのうち須恵器椀1点を図示した。

H-10号竪穴住居跡 (Fig.12・34)

位置 X-91・92、Y-114グリッド 主軸方位 N-80°-E 面積 [8.95] m² 形状等 長方形。東西2.52m、南北3.55m、壁現高3.0cmを測る。床面 平坦な床面。竈 不詳。貯蔵穴 不詳。重複 D-15・16・17・43・44・49・50号土坑と重複し、本遺構が古い。時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。遺物 須恵器20点、灰釉陶器20点、鉄製品1点を出土している。そのうち須恵器椀1点、須恵器壺1点、灰釉陶器壺1点、鉄製品1点を図示した。

H-11号竪穴住居跡 (Fig.13・36)

位置 X-91・92、Y-114・115グリッド 主軸方位 N-86°-E 面積 11.53m² 形状等 長方形。東西2.92m、南北3.95m、壁現高15.0cmを測る。床面 平坦な床面。埋土には10~60cm程の炭化材が含まれる。竈 東壁やや南寄りから検出。主軸方向はN-88°-Wであり、全長105cm、最大幅110cm、焚口部幅50cmを測る。支脚石は2個据えられており、いずれも四面を削り出した粗粒凝灰岩を使用している。貯蔵穴 北西部で検出したD-48号土坑が貯蔵穴となるか。重複 H-12・13号住居跡と重複し、本遺構が新しい。時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。遺物 土師器2点、須恵器63点、灰釉陶器8点、瓦2点、鉄製品1点、砥石1点が出土している。そのうち須恵器壺1点、須恵器壺1点、須恵器椀1点、須恵器羽釜3点、灰釉陶器椀2点、灰釉陶器皿2点、瓦2点、砥石1点、鉄製品1点を図示した。

H-12号竪穴住居跡 (Fig.12・33)

位置 X-91・92、Y-114・115グリッド 主軸方位 N-88°-E 面積 (13.61) m² 形状等 方形か。東西(3.18)m、南北(4.28)m、壁現高13.0cmを測る。床面 平坦な床面。竈 不詳。貯蔵穴 不詳。重複 H-11・13号住居跡と重複し、新旧はH-11→H-12→H-13の順。時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。遺物 須恵器38点、灰釉陶器2点、瓦1点が出土。そのうち須恵器椀1点、瓦1点を図示した。

H-13号竪穴住居跡 (Fig.14・36)

位置 X-90・91、Y-115グリッド 主軸方位 N-88°-E 面積 [8.84] m² 形状等 方形。東西2.72m、南北3.25m、壁現高10.0cmを測る。床面 平坦な床面。中央～東部が硬化している。竈 東壁やや南寄りから検出。燃焼部、煙道部はH-11号住居跡により削除される。主軸方向は(N-88°-W)であり、全長(57)cm、最大幅126cm、焚口部幅40cmを測る。貯蔵穴 窓南側から検出。重複 H-11・12号住居跡、W-9号溝跡と重複し、本遺構が古い。時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。遺物 土師器2点、須恵器24点、瓦5点、こも石1点が出土している。そのうち須恵器椀8点、須恵器壺2点、須恵器羽釜1点、瓦3点、こも石1点を図示した。

H-14号竪穴住居跡 (Fig.14・34)

位置 X-96・97、Y-115・116グリッド 主軸方位 N-73°-E 面積 8.03m² 形状等 方形。東西2.92m、南北2.75m、壁現高7.0cmを測る。床面 平坦な床面。中央～東部が硬化している。竈 東壁やや南寄りから検出。主軸方向はN-67°-Eであり、全長165cm、最大幅80cm、焚口部幅40cmを測る。袖石の設置痕が残る。貯蔵穴 なし。重複 P-24・27・46・47と重複し、本遺構が古い。時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。遺物 須恵器12点、灰釉陶器6点、瓦6点が出土している。そのうち須恵器椀2点、須恵器壺1点、瓦1点を図示した。

H-15号竪穴住居跡 (Fig.15・37)

位置 X-93・94、Y-117・118グリッド 主軸方位 N-88°-E 面積 (13.88) m² 形状等 長方形か。東西4.45m、南北(3.12)m、壁現高42.0cmを測る。床面 平坦な床面。中央～東部が硬化している。壁 東壁から検出。主軸方向はN-80°-Eであり、全長115cm、最大幅115cm、焚口部幅70cmを測る。支脚石には四面を削り出した粗粒凝灰岩を使用している。貯蔵穴 窓南側から検出。尚、掘り方の調査時に、南西部においてD-58号土坑を検出(床下土坑)。重複 D-31号土坑、P-52と重複し、本遺構が古い。時期 埋土や出土遺物から8世紀代と考えられる。遺物 繩文土器1点、土師器172点、須恵器21点が出土している。そのうち須恵器壺蓋1点、須恵器壺1点、須恵器盤1点、須恵器甕1点、土師器壺2点、土師器鉢1点、土師器甕2点を図示した。

2. 溝 跡 (Tab.6)

W-1号溝跡 (Fig.17)

位置 X-90、Y-111～113グリッド 主軸方位 N-8°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。流水の痕跡なし。重複 なし。時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。遺物 土師器1点、須恵器1点が出土している。図示できるものはない。

W-2号溝跡 (Fig.18)

位置 X-91・92、Y-112グリッド 主軸方位 N-99°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を東西に走行する。W-3号溝跡と直交、W-9号溝跡と並行の位置にある。流水の痕跡なし。重複 なし。時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。遺物 近世以降の瓦1点が出土。図示不可能である。

W-3号溝跡 (Fig.18)

位置 X-92、Y-111・112グリッド 主軸方位 N-11°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。W-2号溝跡と直交の位置にある。流水の痕跡なし。重複 なし。時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。遺物 出土していない。

W-4号溝跡 (Fig.17)

位置 X-92、Y-113・114グリッド 主軸方位 N-38°-W 形状等 断面はU字形。調査区を北西～南東に走行する。やや蛇行気味であり、W-6号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。重複 なし。時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。遺物 出土していない。

W-5号溝跡 (Fig.19)

位置 X-92～94、Y-111～118グリッド 主軸方位 N-8°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。W-7・8・9号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。重複 H-1・3号住居跡、W-6号溝跡と重複し、本遺構が新しい。時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。遺物 繩文土器2点、須恵器13点、灰釉陶器1点、瓦1点が出土している。図示不可能である。

W-6号溝跡 (Fig.17)

位置 X-92～94、Y-114～117グリッド 主軸方位 N-37°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を北西～南東に走行する。やや蛇行気味で、W-4号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。重複 H-10号住

居跡、W-5号溝跡、D-31・44号土坑と重複し、本造構が古い。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 繩文土器1点、土師器3点、須恵器1点が出土する。図示不可能である。

W-7号溝跡 (Fig.18)

位置 X-114~116、Y-94グリッド 主軸方位 N-5°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。W-5・8・9号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 なし。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 須恵器壺1点が出土している。図示不可能である。

W-8号溝跡 (Fig.18)

位置 X-96、Y-112~114グリッド 主軸方位 N-5°-E 形状等 断面はU字形。調査区を南北に走行する。W-5・7・9号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 H-6号住居跡と重複し、本造構が新しい。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 須恵器1点、瓦2点、瀬戸・美濃製品1点が出土している。近世以降の瓦を含む。図示不可能である。

W-9号溝跡 (Fig.19)

位置 X-90・91、Y-111~115グリッド 主軸方位 N-5°-E 形状等 断面はU字形。調査区を南北に走行する。W-5・7・8号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 H-13号住居跡と重複し、本造構が新しい。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 須恵器1点、土師器1点が出土している。図示不可能である。

W-10号溝跡 (Fig.18)

位置 X-89、Y-117~118グリッド 主軸方位 N-9°-E 形状等 断面はU字形。調査区を南北に走行する。流水の痕跡なし。 重複 なし。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 須恵器2点、土師器1点が出土している。図示不可能である。

W-11号溝跡 (Fig.16)

位置 X-105、Y-114グリッド 主軸方位 N-33°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を北西~南東に走行するW-20号溝跡の続き。W-12号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 北側は大きく擾乱されている。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 なし。

W-12号溝跡 (Fig.16)

位置 X-104~105、Y-114グリッド 主軸方位 N-36°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を北西~南東に走行するW-19号溝跡の続き。W-11号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 北側は大きく擾乱されている。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 なし。

W-13号溝跡 (Fig.19)

位置 X-101~105、Y-111~112グリッド 主軸方位 N-106°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を東西に走行する。W-15号溝跡とほぼ直交の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 W-15・19・20号溝跡と重複し、本造構が新しい。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 土師器6点、瓦1点が出土している。図示不可能である。

W-14号溝跡 (Fig.17)

位置 X-98・99、Y-111・112グリッド 主軸方位 N-38°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を北西～南東に走行する。W-19・20号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 I-2号井戸跡と重複し、本遺構が古い。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 繩文土器小片1点出土している。図示不可能である。

W-15号溝跡 (Fig.19)

位置 X-103・104、Y-111～115グリッド 主軸方位 N-18°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。W-16号溝跡とほぼ並行、W-13号溝跡とほぼ直交の位置にある。Y114あたりで弱く屈曲している。流水の痕跡なし。 重複 W-13・18・19・20号溝跡と重複し、本遺構がW-13より古く、W-18・19・20より新しい。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 繩文土器小片1点、瓦1点、常滑焼1点が出土している。図示不可能である。

W-16号溝跡 (Fig.18)

位置 X-102・103、Y-112～114グリッド 主軸方位 N-27°-E 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。W-15号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 W-17号溝跡と重複し、本遺構が新しい。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 瓦1点、常滑焼3点が出土している。図示不可能である。

W-17号溝跡 (Fig.17)

位置 X-103、Y-112グリッド 主軸方位 N-72°-E 形状等 断面はU字形。流水の痕跡なし。 重複 W-16号溝跡と重複し、本遺構が古い。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 出土していない。

W-18号溝跡 (Fig.17)

位置 X-103、Y-112グリッド 主軸方位 N-78°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を南北に走行する。W-13号溝跡とほぼ並行、W-15号溝跡とほぼ直交の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 W-15号溝跡と重複し、本遺構が古い。 時期 埋土からAs-B(浅間山起源:1108年)の降下以降と考えられる。 遺物 遺物は出土していない。

W-19号溝跡 (Fig.16)

位置 X-102～105、Y-111～115グリッド 主軸方位 N-36°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を北西～南東に走行する。現代擾乱をはさみW-12号溝跡に続く。W-14・20号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 W-13・15・18号溝跡と重複し、本遺構が古い。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 繩文土器1点、土師器2点、須恵器1点、灰釉陶器1点が出土している。図示不可能である。

W-20号溝跡 (Fig.16・37)

位置 X-102～105、Y-111～115グリッド 主軸方位 N-33°-W 形状等 断面は逆台形。調査区を北西～南東に走行する。現代擾乱をはさみW-11号溝跡に続く。W-14・19号溝跡とほぼ並行の位置にある。流水の痕跡なし。 重複 W-13・15・18号溝跡と重複し、本遺構が古い。 時期 不明(埋土にAs-Bの混入なし)。 遺物 瓦1点、土師器6点、須恵器11点が出土している。そのうち須恵器壺1点、須恵器壺蓋1点、瓦1点を図

示した。

3. 挖立柱建物 (Tab. 3)

B—1号掘立柱建物 (Fig.24)

位置 X—89・90、Y—117・118グリッド 主軸方位 N—12°—W 規模 東西270×南北290cm 面積 7.83m²
柱穴の芯～芯距離 220cm 柱穴の埋土 黒褐色土。×△。As-C 20%含む。備考 15A区 P—1～4 時期
不詳 遺物 出土していない。

X—1号ピット組 (Fig.24)

位置 X—102・103、Y—114・115グリッド 主軸方位 N—18°—E ピットの芯～芯距離 170cm ピットの埋
土 暗褐色土。△△。As-C・Hr-FP 5%、As-B 10～30%含む。備考 15B区 P—133・141 時期 埋土か
ら As-B (浅間山起源: 1108年) の降下以降と考えられる。遺物 出土していない。

4. 土 墓 (Tab. 4)

DB—1号土壙墓 (Fig.24)

位置 X—89、Y—117グリッド 主軸方位 N—17°—W 規模 東西110×南北110×深さ35cm 形状 楕円形
頭位 北西位西面 葬法 右側臥屈葬 備考 被葬者の上から数点の河原石が検出。人骨の遺存状態は悪いが、
ほぼ全身の部位が出土している。推定年齢20歳～20歳代の男性 時期 中世 遺物 出土していない。

5. 井 戸 跡 (Tab. 5)

I—1号井戸跡 (Fig.24)

位置 X—99・100、Y—111グリッド 規模 (1.87) × 1.92 × (2.20)m 形状 楕円形 埋土 黒褐色土。△△。
As-C・Hr-FP 10%、As-B混入。φ 5mmの炭粒を含む。時期 埋土から As-B (浅間山起源: 1108年) の降下
以降と考えられる。遺物 土師器1点、瓦1点、中世以降の炻器1点が出土している。図示不可能。

I—2号井戸跡 (Fig.24)

位置 X—99、Y—111・112グリッド 規模 2.35 × 2.23 × (2.45)m 形状 楕円形 埋土 黒褐色土。△△。
As-C・Hr-FP 10%、As-B混入。φ 5mmの炭粒を含む。黄褐色砂質土をブロック状に含む。時期 埋土から As-B
(浅間山起源: 1108年) の降下以降と考えられる。遺物 土師器3点、須恵器1点、常滑焼2点、中世以降
の炻器1点が出土している。図示不可能である。

6. 土坑・ピット跡 (Tab. 7・Fig.37)

堅穴住居跡の床下土坑と考えられるものはD—52号土坑、D—53号土坑、D—55号土坑、D—56号土坑、D—57
号土坑であり、それぞれH—2号住居跡、H—3号住居跡、H—8号住居跡、H—4号住居跡、H—5号住居跡
の掘り方調査で検出した。

土坑・ピット跡の詳細については Tab. 7 土坑・ピット計測表を参照されたい。

尚、D—37号土坑跡出土の須恵器碗1点と、P—42号ピット出土の須恵器坏1点を Fig.37に図示した。

Tab. 2 住居跡一覧表

遺構名	位 置	規 模		面積 (m ²)	主軸方位	電		周 溝	主な出土遺物		
		東西 (m)	南北 (m)	壁現高 (cm)		位 置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-1	X-93 Y-112・113	(3.18)	4.68	10.0	(14.88)	N-99°-E	—	—	土釜	高台板・环	灰釉陶器・瓦
H-2	X-92・93 Y-111・112	3.25	3.62	9.5	[11.76]	N-87°-E	—	—	甕	高台板・羽釜	瓦
H-3	X-92・93 Y-116・117	2.74	3.27	28.0	8.96	N-91°-E	東壁や南	粘土	○	甕	羽釜・灰
H-4	X-91・92 Y-116・117	2.93	4.38	25.0	12.83	N-88°-E	東壁や南	粘土・凝灰岩	○	羽釜・环	灰釉陶器・瓦
H-5	X-94・95 Y-113・114	3.47	3.15	16.0	[10.93]	N-83°-E	東壁・南端	石	—	高台板・羽釜	灰釉陶器・瓦
H-6	X-95・96 Y-114・115	2.77	3.26	9.0	9.03	N-155°-E	—	—	—	高台板・环	瓦
H-7	X-97・98 Y-113・114	2.62	(2.74)	33.0	(7.18)	N-36°-E	—	—	—	环	瓦
H-8	X-95・96 Y-116・117	3.57	4.63	25.0	16.53	N-89°-E	東壁や南	凝灰岩	○	甕・环	环
H-9	X-90 Y-118	3.44	(1.60)	40.0	(3.44)	N-85°-E	—	—	—	高台板	瓦
H-10	X-91・92 Y-114	2.52	3.55	23.0	[8.95]	N-80°-E	—	—	—	高台板・甕	灰釉陶器
H-11	X-91・92 Y-114・115	2.92	3.95	15.0	11.53	N-86°-E	東壁や南	凝灰岩	—	羽釜・环	灰釉陶器・瓦
H-12	X-91・92 Y-114・115	(3.18)	(4.28)	13.0	(13.61)	N-88°-E	—	—	—	高台板・羽釜	灰釉陶器・瓦
H-13	X-90・91 Y-115	2.72	3.25	10.0	[8.84]	N-88°-E	東壁や南	粘土・石	—	高台板・环・羽釜	瓦
H-14	X-96・97 Y-115・116	2.92	2.75	7.0	8.03	N-73°-E	東壁や南	—	—	高台板	灰釉陶器・瓦
H-15	X-93・94 Y-117・118	4.45	(3.12)	42.0	(13.88)	N-88°-E	東壁や南	粘土・凝灰岩	—	甕・环・跡	甕・环・瓦

Tab. 3 据立柱建物跡等計測表

遺構名	位 置	規 模 (cm)	面積 (m ²)	主軸方位	芯～芯距離 (cm)	備 考
B-1	X-89・90 Y-117・118	東西270×南北290	7.83	N-12°-W	220	15AⅡ P-1~4
X-1	X-102・103 Y-114・115	—	—	N-18°-E	170	15BⅣ P-133・141

Tab. 4 土 塵 計 測 表

遺構名	位 置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸方位	形 状	頭 位	掘 法	推 定 年 齢	出 土 遺 物	備 考
DB-1	X-89 Y-117	110	75	35	N-17°-W	梢円形	北西	側壁屈筋	20歳～20歳代	なし	

Tab. 5 戸 跡 計 測 表

遺構名	位 置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (cm)	形 状	出 土 遺 物	備 考
I-1	X-99・100 Y-111	(1.87)	1.92	(220)	梢円形	瓦・土師器・中世以降の磁器	D-101
I-2	X-99 Y-111・112	2.35	2.23	(245)	梢円形	土師器・須恵器・中世以降の磁器	D-102

Tab. 6 溝跡計測表

道構名	位 置	長さ(m)	深さ(cm)		上幅(cm)		下幅(cm)		主軸方位	断面形	時 期	備 考
			最大	最小	最大	最小	最大	最小				
W-1	X-90 Y-111~113	(7.90)	17.0	12.0	60.0	49.0	46.0	27.0	N-8°-W	逆台形	不明	
W-2	X-91~92 Y-112	4.15	30.0	6.0	66.0	46.0	50.0	22.0	N-99°-E	逆台形	As-B降下後	
W-3	X-92 Y-111~112	2.28	29.0	8.0	42.0	23.0	20.0	10.0	N-11°-E	逆台形	As-B降下後	
W-4	X-92 Y-113~114	2.72	13.0	8.0	43.0	28.0	28.0	16.0	N-38°-W	U字形	不明	
W-5	X-92~94 Y-111~118	(27.45)	20.0	10.0	80.0	52.0	64.0	22.0	N-8°-E	逆台形	As-B降下後	
W-6	X-92~94 Y-114~117	(14.00)	18.0	8.0	82.0	26.0	69.0	12.0	N-37°-W	逆台形	不明	
W-7	X-114~116 Y-94	9.84	16.0	8.0	60.0	32.0	38.0	14.0	N-5°-E	逆台形	As-B降下後	
W-8	X-96 Y-112~114	(7.10)	15.0	12.0	57.0	36.0	40.0	17.0	N-5°-E	U字形	As-B降下後	
W-9	X-90~91 Y-111~115	(13.44)	12.0	10.0	55.0	32.0	37.0	20.0	N-5°-E	U字形	As-B降下後	
W-10	X-89 Y-117~118	(3.81)	38.0	24.0	96.0	70.0	62.0	54.0	N-9°-E	U字形	As-B降下後	
W-11	X-102~105 Y-111~115	(11.45)	28.0	10.0	48.0	48.0	30.0	22.0	N-33°-W	逆台形	不明	=W-20
W-12	X-102~105 Y-111~115	(11.45)	20.0	15.0	68.0	68.0	57.0	57.0	N-26°-W	逆台形	不明	=W-19
W-13	X-101~105 Y-111~112	(18.18)	24.0	18.0	74.0	34.0	69.0	19.0	N-106°-E	逆台形	As-B降下後	
W-14	X-98~99 Y-111~112	(3.54)	18.0	15.0	79.0	65.0	48.0	28.0	N-38°-W	逆台形	不明	
W-15	X-103~104 Y-111~115	(16.38)	25.0	14.0	150.0	54.0	117.0	38.0	N-18°-E	逆台形	As-B降下後	
W-16	X-102~103 Y-112~114	8.72	10.0	5.0	61.0	34.0	45.0	20.0	N-27°-E	逆台形	As-B降下後	
W-17	X-102 Y-112	1.88	15.0	8.0	27.0	25.0	18.0	11.0	N-72°-E	U字形	不明	
W-18	X-103 Y-112	(1.50)	7.0	7.0	70.0	55.0	53.0	40.0	N-78°-W	逆台形	As-B降下後	
W-19	X-102~105 Y-111~115	(11.45)	20.0	15.0	121.0	88.8	100.0	58.0	N-36°-W	逆台形	不明	
W-20	X-102~105 Y-111~115	(11.45)	28.0	10.0	122.0	86.0	100.6	57.0	N-33°-W	逆台形	不明	

Tab. 7 土坑・ビット計測表

地盤名	区	位置	長軸	短軸	深さ	形状	覆土	備考	地盤名	区	位置	長軸	短軸	深さ	形状	覆土	備考
D-1	15A	X89 Y116	95	83	15	円形			D-55	15A	X96 Y117	96	89	15	楕円形	H-8床下で検出。土 面剥離・露。	
D-2	15A	X89 Y114	92	80	26	不定形	近瓦瓦		D-56	15A	X97 Y116	75	56	17	楕円形	H-4床下で検出。	
D-3	15A	X89 Y112	125	129	25	円形	土側面環・裏地側部		D-57	15A	X95 Y113	132	111	25	楕円形	H-5床下で検出。	
D-4	15A	X91 Y112	95	93	15	円形	裏地側部		D-58	15A	X94 Y118	(33)	63	24	楕円形	H-15。	
D-5	15A	X91 Y112	105	102	15	円形			D-59	15A	X99 Y113	199	(36)	(22)	非円	I-1。	
D-6	15A	X92 Y113	95	93	22	円形	裏地側部・瓦		D-60	15B	X99 Y113	237	223	649	非円	I-2。	
D-7	15A	X91 Y112	(70)	80	18	円形			D-61	15B	X99 Y112	222	360	36	方形	上側面環・中層以降の 大きさ?	
D-8	15A	X91 Y112	85	(80)	12	円形	裏地側部		D-62	15B	X99 Y113	120	85	10	不定形	中層以降の大きさ?	
D-9	15A	X91 Y112	90	82	19	円形			D-63	15B	X101 Y112	132	105	5	楕円形		
D-10	15A	X91 Y112	90	75	19	楕円形	土側面環		D-64	15B	X101 Y112	82	80	15	楕円形		
D-11	15A	X91 Y112	85	(85)	15	楕円形	鏡文・器		D-65	15B	X102 Y113	95	90	20	楕円形	土側面環	
D-12	15A	X92 Y112	95	90	12	円形	裏地側部・瓦		D-66	15B	X101 Y113	45	33	8	楕円形		
D-13	15A	X95 Y113	150	167	29	楕円形	土側面、裏地側部・器		D-67	15B	X102 Y112	88	58	12	楕円形	裏地側部	
D-14	15A	X92 Y113	98	90	13	円形			D-68	15B	X102 Y112	90	73	14	不定形		
D-15	15A	X91 Y114	78	168	25	円形	土側面環・裏地側部・ 瓦側面環		D-69	15B	X104 Y112	75	43	12	楕円形		
D-16	15A	X91 Y113	90	85	24	楕円形			D-70	15B	X105 Y113	10	26	18	楕円形	土側面	
D-17	15A	X91 Y113	105	100	12	楕円形	裏地側部		D-71	15B	X103 Y113	26	25	28	不定形		
D-18	15A	X92 Y116	140	160	15	楕円形	土側面環		D-72	15B	X103 Y114	115	20	8	不規則		
D-19	15A	X93 Y115	83	60	22	楕円形	土側面環		D-73	15B	X103 Y113	88	20	10	楕円形		
D-20	15A	X94 Y114	95	79	12	不定形			D-74	15B	X104 Y113	60	53	35	不定形	鏡文・器	
D-21	15A	X94 Y116	170	147	18	楕円形	土側面環・云世陶器		D-75	15B	X102 Y114	97	75	6	楕円形		
D-22	15A	X95 Y115	102	52	10	不規則			D-76	15B	X103 Y113	90	30	6	不定形		
D-23	15A	X96 Y114	118	112	16	円形			D-77	15B	X103 Y113	128	43	25	不定形	土側面	
D-24	15A	X96 Y115	75	45	29	楕円形			D-78	15B	X105 Y113	83	(43)	35	不定形		
D-25	15A	X95 Y116	25	62	22	楕円形			D-79	15B	X104 Y112	235	58	7	不定形		
D-26	15A	X95 Y116	222	167	47	不定形	鏡文・土層・土側面環		D-80	15B	X103 Y112	206	93	34	不定形	上側面、裏面側面、瓦 地水跡?	
D-27	15A	X95 Y116	305	87	22	不規則			D-81	15B	X103 Y114	(180)	60	25	楕円形		
D-28	15A	X96 Y112	155	93	17	長方形	土側面		D-82	15B	X104 Y114	(36)	50	不規形	裏地側部・瓦側面環・瓦		
D-29	15A	X95 Y113	95	56	15	楕円形	鏡文・器		D-83	15B	X104 Y112	76	(45)	30	不規形		
D-30	15A	X95 Y113	110	78	20	楕円形	鏡文・器		D-84	15B	X104 Y112	55	43	30	楕円形	C-B-1。	
D-31	15A	X92 Y112	235	215	18	楕円形	土側面環・裏地側部・ 瓦		D-85	15A	X98 Y118	85	47	34	楕円形	C-B-1。	
D-32	15A	X92 Y115	125	60	22	不規形			D-86	15A	X90 Y117	87	53	47	楕円形	C-B-1。	
D-33	15A	X92 Y116	92	91	13	不規形	肥前染付け綱		D-87	15A	X98 Y117	70	53	43	楕円形	C-B-1。	
D-34	15A	X94 Y113	95	80	26	不定形	肥前染付け綱		D-88	15A	X89 Y118	90	63	39	楕円形	C-B-1。	
D-35	15A	X95 Y113	100	85	27	不規形	鏡文・土層・裏地側部・ 土側面環		D-89	15A	X90 Y112	56	55	29	楕円形	A	
D-36	15A	X94 Y113	130	85	30	不規形	鏡文・土層・染付け綱		D-90	15A	X91 Y112	40	26	22	楕円形	A	
D-37	15A	X94 Y114	118	113	22	楕円形	裏地側部・瓦・土層・ 染付け綱		D-91	15A	X91 Y112	26	24	17	楕円形	A	
D-38	15A	X92 Y112	205	58	8	不規形	裏地側部		D-92	15A	X91 Y111	48	36	24	楕円形	A	
D-39	15A	X92 Y112	82	52	16	楕円形	鏡文・土層・裏地側部・ 瓦		D-93	15A	X92 Y113	45	25	30	楕円形	A	
D-40	15A	X95 Y113	45	35	19	不定形			D-94	15A	X92 Y113	42	27	17	楕円形	A	
D-41	15A	X95 Y113	130	85	12	不規形	瓦		D-95	15A	X92 Y113	35	33	15	円形	A	
D-42	15A	X91 Y114	130	83	12	不規形			D-96	15A	X92 Y113	30	25	16	円形	A	
D-43	15A	X91 Y114	100	(90)	29	楕円形			D-97	15A	X92 Y113	32	32	20	楕円形	A	
D-44	15A	X91 Y114	140	95	40	不規形	土側面環		D-98	15A	X93 Y115	49	49	30	楕円形	A	
D-45	15A	X92 Y112	90	66	35	楕円形	裏地側部・鏡・羽目・瓦		D-99	15A	X93 Y114	58	49	30	楕円形	A	
D-46	15A	X92 Y112	80	56	35	楕円形			D-100	15A	X93 Y114	45	45	14	円形	A	
D-47	15A	X91 Y115	143	89	17	楕円形	裏地側部・瓦		D-101	15A	X94 Y115	42	38	17	楕円形	A	
D-48	15A	X91 Y114	57	57	27	円形			D-102	15A	X95 Y115	40	38	24	楕円形	A	
D-49	15A	X93 Y114	115	83	29	楕円形			D-103	15A	X95 Y115	50	49	18	楕円形	A	
D-50	15A	X91 Y114	96	72	30	楕円形			D-104	15A	X95 Y115	60	44	34	楕円形	A	
D-51	15A	X97 Y115	45	40	19	不定形			D-105	15A	X96 Y115	46	49	27	楕円形	A	
D-52	15A	X92 Y116	125	78	12	楕円形	H-2床下で検出。裏 地側部		D-106	15A	X96 Y115	45	43	15	楕円形	A	
D-53	15A	X92 Y116	108	93	28	楕円形	H-3床下で検出。		D-107	15A	X96 Y116	28	55	16	楕円形	A	
D-54	15A	X95 Y113	45	37	19	楕円形	H-5・土側面。		D-108	15A	X97 Y115	68	52	31	楕円形	A	

邊緣名	區	位置	長軸	短軸	深さ	形状	覆土	備考
P-26	15.A	X97 Y115	27	28	6	橢円形	A	
P-27	15.A	X98 Y116	33	48	36	不規形	A	瓦
P-28	15.A	X98 Y116	32	32	38	四形	A	
P-29	15.A	X97 Y116	36	59	28	橢円形	A	
P-30	15.A	X98 Y115	37	32	36	橢円形	A	
P-31	15.A	X98 Y115	25	25	30	四形	A	
P-32	15.A	X97 Y116	35	33	11	橢円形	A	
P-33	15.A	X98 Y114	(40)	30	22	橢円形	B	土加厚
P-34	15.A	X98 Y114	42	40	22	橢円形	B	
P-35	15.A	X98 Y115	26	28	29	円形	B	
P-36	15.A	X98 Y116	35	33	26	橢円形	B	土加厚
P-37	15.A	X99 Y116	26	28	29	円形	B	
P-38	15.A	X99 Y116	33	30	14	橢円形	B	
P-39	15.A	X99 Y116	32	45	36	橢円形	B	
P-40	15.A	X98 Y117	69	39	28	橢円形	B	土加厚變
P-41	15.A	X95 Y113	43	38	32	円形	B	土加厚環+變
P-42	15.A	X96 Y115	96	42	33	橢円形	C	氣泡斷環
P-43	15.A	X96 Y115	49	36	26	橢円形	D	
P-44	15.A	X96 Y115	62	45	25	橢円形	D	
P-45	15.A	X97 Y115	38	35	18	橢円形	D	
P-46	15.A	X96 Y115	50	45	18	橢円形	D	
P-47	15.A	X96 Y115	42	35	16	橢円形	D	瓦
P-48	15.A	X91 Y114	25	25	29	円形	C	
P-49	15.A	X92 Y116	35	22	15	橢円形	D	H-4+
P-50	15.A	X92 Y112	60	40	15	橢円形	D	H-4+
P-51	15.A	X92 Y114	35	28	27	橢円形	A	
P-52	15.A	X93 Y117	65	60	18	橢円形	D	
P-53	15.A	X97 Y114	18	13	18	橢円形	C	H-7, 氣泡斷裂孔。
P-54	15.A	X93 Y112	30	23	12	橢円形	A	
P-55	15.A	X97 Y114	44	35	23	橢円形	C	H-7+
P-56	15.A	X92 Y112	38	35	27	橢円形	A	
P-57	15.A	X92 Y112	40	33	21	橢円形	A	
P-1	15.B	X100 Y113	43	35	10	橢円形	I	
P-7	15.B	X100 Y113	28	56	15	円形	I	
P-3	15.B	X100 Y113	31	36	18	不規形	E	
P-4	15.B	X100 Y113	25	23	13	円形	F	
P-5	15.B	X100 Y113	36	35	42	不規形	G	
P-6	15.B	X100 Y113	53	44	38	不規形	G	
P-7	15.B	X100 Y113	36	33	35	橢円形	G	
P-8	15.B	X100 Y113	29	18	8	円形	G	
P-9	15.B	X100 Y113	36	35	19	円形	G	
P-10	15.B	X100 Y113	35	32	35	橢円形	G	
P-11	15.B	X101 Y113	38	30	29	橢円形	G	
P-12	15.B	X100 Y113	56	48	32	橢円形	G	土加厚環。頂部加厚
P-13	15.B	X100 Y113	38	38	33	橢円形	E	
P-14	15.B	X100 Y113	35	32	32	円形	G	
P-15	15.B	X100 Y112	28	25	16	不規形	G	
P-16	15.B	X100 Y112	54	52	8	円形	F	
P-17	15.B	X100 Y112	53	47	27	円形	G	土加厚環
P-18	15.B	X100 Y112	42	(20)	12	橢円形	F	
P-19	15.B	X100 Y112	28	26	19	円形	F	
P-20	15.B	X100 Y112	46	35	19	不規形	F	
P-21	15.B	X100 Y113	43	38	25	橢円形	H	
P-22	15.B	X104 Y113	23	15	30	橢円形	H	
P-23	15.B	X104 Y113	28	25	22	円形	H	
P-24	15.B	X104 Y113	38	30	28	橢円形	H	
P-25	15.B	X104 Y113	29	25	45	橢円形	E	
P-26	15.B	X104 Y113	26	25	48	円形	G	
P-27	15.B	X104 Y113	22	15	34	橢円形	G	
P-28	15.B	X104 Y113	46	34	34	橢円形	G	
P-29	15.B	X104 Y113	30	25	40	橢円形	G	
P-30	15.B	X104 Y113	32	28	50	円形	H	頂部加厚
P-31	15.B	X103 Y113	25	23	35	円形	H	
P-32	15.B	X104 Y113	30	28	22	橢円形	H	
P-33	15.B	X104 Y113	26	22	35	橢円形	H	
P-34	15.B	X104 Y113	24	22	72	橢円形	H	
P-35	15.B	X104 Y113	23	23	29	円形	H	
P-36	15.B	X105 Y112	35	25	36	橢円形	I	
P-37	15.B	X104 Y112	42	33	28	橢円形	I	
P-38	15.B	X104 Y112	38	30	38	橢円形	I	
P-39	15.B	X104 Y112	25	18	43	橢円形	I	
P-40	15.B	X104 Y112	33	25	72	橢円形	I	
P-41	15.B	X103 Y113	53	45	35	橢円形	G	
P-42	15.B	X103 Y113	23	23	39	橢円形	G	
P-43	15.B	X103 Y113	58	50	20	橢円形	G	頂部加厚
P-44	15.B	X103 Y113	55	45	38	橢円形	G	
P-45	15.B	X104 Y113	33	23	38	橢円形	G	
P-46	15.B	X103 Y113	43	38	28	橢円形	G	土加厚
P-47	15.B	X103 Y113	26	22	40	不規形	G	
P-48	15.B	X103 Y113	26	23	39	橢円形	G	
P-49	15.B	X103 Y113	37	36	38	円形	G	土加厚
P-50	15.B	X103 Y113	62	45	38	橢円形	G	
P-51	15.B	X103 Y113	48	43	34	橢円形	G	
P-52	15.B	X103 Y114	27	25	47	橢円形	G	
P-53	15.B	X103 Y114	38	25	29	橢円形	G	
P-54	15.B	X103 Y113	35	30	28	円形	G	
P-55	15.B	X102 Y113	35	28	32	橢円形	G	
P-56	15.B	X102 Y113	40	35	32	橢円形	F	頂部加厚
P-57	15.B	X102 Y113	55	48	60	橢円形	F	土加厚環、瓦
P-58	15.B	X102 Y113	28	22	43	橢円形	F	
P-59	15.B	X102 Y113	33	20	34	円形	F	
P-60	15.B	X102 Y113	43	40	30	円形	F	
P-61	15.B	X102 Y114	28	15	34	不規形	H	
P-62	15.B	X102 Y114	36	25	49	橢円形	H	
P-63	15.B	X102 Y114	25	23	34	円形	H	
P-64	15.B	X102 Y112	43	24	36	不規形	G	
P-65	15.B	X101 Y112	30	29	42	橢円形	H	
P-66	15.B	X100 Y112	27	22	39	橢円形	G	
P-67	15.B	X100 Y112	26	20	30	円形	G	
P-68	15.B	X101 Y112	25	25	34	橢円形	F	
P-69	15.B	X100 Y112	28	27	38	円形	G	
P-70	15.B	X101 Y113	22	22	27	円形	G	
P-71	15.B	X101 Y113	35	23	38	橢円形	G	
P-72	15.B	X101 Y112	33	25	38	橢円形	F	
P-73	15.B	X101 Y113	41	35	36	橢円形	F	瓦
P-74	15.B	X101 Y112	25	17	39	橢円形	F	
P-75	15.B	X101 Y113	43	36	42	橢円形	F	頂部加厚
P-76	15.B	X101 Y113	25	20	36	橢円形	F	

造徳名	区	位置	長軸	短軸	深さ	形状	屢土	備考
P-77	15B	X101 Y113	32	23	20	楕円形	F	
P-78	15B	X101 Y113	30	24	18	楕円形	F	
P-79	15B	X101 Y113	35	25	25	楕円形	F	
P-80	15B	X101 Y113	32	20	24	円形	G	
P-81	15B	X101 Y113	26	18	20	楕円形	I	
P-82	15B	X101 Y113	15	15	20	円形	I	
P-83	15B	X101 Y113	25	17	17	楕円形	I	
P-84	15B	X101 Y113	38	28	45	楕円形	F	
P-85	15B	X102 Y113	25	25	27	円形	F	
P-86	15B	X102 Y113	33	28	26	楕円形	F	
P-87	15B	X102 Y113	40	25	33	楕円形	F	
P-88	15B	X102 Y114	36	28	35	楕円形	I	
P-89	15B	X102 Y114	30	20	11	楕円形	I	
P-90	15B	X102 Y114	30	27	30	円形	I	
P-91	15B	X101 Y114	29	29	14	円形	I	
P-92	15B	X101 Y114	33	30	12	円形	I	
P-93	15B	X101 Y115	26	18	17	円形	I	
P-94	15B	X101 Y115	27	23	22	楕円形	I	
P-95	15B	X101 Y115	27	25	26	円形	I	
P-96	15B	X102 Y113	30	25	40	楕円形	F	
P-97	15B	X102 Y113	40	33	18	楕円形	F	
P-98	15B	X103 Y113	40	34	50	楕円形	F	
P-99	15B	X103 Y113	(30)	35	27	楕円形	H	
P-100	15B	X103 Y113	45	45	23	円形	H	
P-101	15B	X103 Y113	(35)	20	21	楕円形	H	
P-102	15B	X103 Y113	33	25	27	楕円形	H	
P-103	15B	X103 Y113	40	30	28	楕円形	E	
P-104	15B	X103 Y112	38	26	40	円形	E	
P-105	15B	X103 Y112	33	30	44	円形	E	
P-106	15B	X103 Y112	33	23	40	円形	E	最深部環
P-107	15B	X103 Y113	25	25	26	楕円形	E	
P-108	15B	X103 Y113	25	18	38	不定形	E	
P-109	15B	X103 Y113	43	35	43	楕円形	E	
P-110	15B	X104 Y113	30	23	58	楕円形	E	
P-111	15B	X104 Y113	30	18	28	円形	E	
P-112	15B	X104 Y113	15	15	13	円形	E	
P-113	15B	X104 Y113	(40)	30	29	不定形	E	
P-114	15B	X104 Y113	35	25	30	楕円形	E	
P-115	15B	X104 Y113	(25)	28	38	不定形	E	
P-116	15B	X104 Y112	23	18	25	楕円形	E	最深部
P-117	15B	X104 Y112	40	30	30	楕円形	H	最深部環
P-118	15B	X104 Y112	30	28	34	楕円形	H	
P-119	15B	X104 Y112	28	25	27	円形	E	
P-120	15B	X104 Y112	22	18	16	楕円形	E	
P-121	15B	X104 Y112	36	32	22	不定形	E	
P-122	15B	X104 Y112	30	180	13	楕円形	E	
P-123	15B	X104 Y113	28	25	40	円形	H	
P-124	15B	X104 Y113	36	42	23	楕円形	H	
P-125	15B	X104 Y113	43	33	38	楕円形	G	
P-126	15B	X104 Y113	28	24	28	楕円形	G	
P-127	15B	X104 Y113	32	25	39	楕円形	G	
P-128	15B	X104 Y113	25	20	8	楕円形	G	
P-129	15B	X104 Y114	28	25	28	楕円形	G	
P-130	15B	X104 Y114	35	33	35	円形	G	

（以下を覆す）

A. 黒褐色土, □△△, As-B = 5~30%, As-C-Hr-PP = 5~10%, #5~30mm, □-△-△, E = 5~10%

泥炭

B. 黑褐色土, □△△, As-C-Hr-PP = 5~30%含む,

C. 黑褐色土, □△△, As-C-Hr-PP = 5~30%含む,

D. 黑褐色土, □△△, As-C-Hr-PP = 20%含む,

E. 黑褐色土, □△△, As-B = 30%含む, □-△-△, E = 5~10%

F. 黑褐色土, □△△, As-B = 30%含む, As-C-Hr-PP = 5%含む,

G. 黑褐色土, □△△, As-B = 10~30%, As-C-Hr-PP = 5%含む,

H. 黑褐色土, □△△, As-C-Hr-PP = 5~10%含む,

I. 黑褐色土, □△△, As-C-Hr-PP = 10%, #5~15mm, E,

Tab. 8 遺物観察表

遺物番号	出位置	種類	口径・厚さ・高さ(cm) 長さ・幅・厚さ(cm)	①形状 ②色彩 ③色調 ④表面度	空洞或 凹凸	断面の特徴・整形・調整技術
1	H-1	高台輪 底面	[19.1]×—×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：外反。体部：ゆるやかに内凹。底部：高台貼り付け。内面：黒色の凹。
2	H-1	高台輪 底面	[14.8]×8.2×4.7	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/3		断面部：口縫部：ゆるやかに外反。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。内面：黒色底。
3	H-1	球 底面	8.7×4.4×2.4	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：ゆるやかに外反。底部：回転糸切り。口縫内・外に埋付君。
4	H-1	球 底面	8.5×5.5×2.2	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：ゆるやかに外反。底部：回転糸切り。
5	H-1	球 底面	8.8×4.9×1.9	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：ほぼ水平。端部：高台貼り付け。非常に精良な胎土。
6	H-1	球 底面	9.8×5.2×3.0	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：底面部：底縫的に立ち上がる。口縫端部は削取りされる。底部：高台貼り付け。
7	H-1	土器 底面	[21.0]×[11.0]×31.2	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/3		側面内縫：横×ヨコナメ。側面外縫下部は縦縫ヘラカツリ。上半部は縦縫ヘラカツリ後、横×ヨコナメ。口縫部：ヨコナメ。
8	H-1	丸瓦	[19.4]×[13.7]×2.6	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/4		内面：ナメ。凹面：布目。側面：面取り2回。端面：面取り2回。
9	H-1	平瓦	[21.0]×[16.5]×1.8	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/4		内面：端口叩き。凹面：布目。側面：面取り2回。端面：面取り1回。
10	H-3	平瓦	(10.0)×(12.5)×2.2	①球形 ②良好 ③褐色 ④小片		凸面：端口叩き後。ナメ。凹面：布目後。ナメ。
11	H-3	球 底面	[17.6]×—×—	①球形 ②浅元青 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：花器。体部：ゆるやかに内凹。端：横け抜け。
12	H-3	球 底面	—×(6.9)×—	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/3		断面部：底面：回転糸切り後。高台貼り付け。
13	H-3	球 底面	—×4.4×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/2		断面部：底面：底縫：回転糸作り。
14	H-3	球 底面	[18.7]×—×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/4		口縫部：内側し。端部は内張る。ヨコナメ。脚部：三角状を呈し、水平に張り出す。側面：内・外に崩壊ナメ。
15	H-4	球 底面	10.3×3.3×3.6	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/2		断面部：口縫部：ゆるやかに内凹。底部：回転糸切り後。ナメ。
16	H-4	球 D-45 底面	9.6×3.4×3.5	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/2		断面部：口縫～体部：ゆるやかに外反。底部：回転糸切り。口縫内・外に埋付君。
17	H-4	球 底面	9.7×5.5×3.2	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④4/5		断面部：口縫～体部：ゆるやかに内凹。底部：回転糸切り。口縫内・外に埋付君。
18	H-4	球 底面	[14.0]×[8.4]×	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/5		断面部：口縫～体部：大きめ外反。底部：三角状を呈す高台を貼り付け。袖：横け抜け。
19	H-4	羽墨 底面	[17.9]×—×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/4		口縫部：内側し。端部は内張る。ヨコナメ。脚部：三角状を呈し、水平に張り出す。側面：内・外に崩壊ナメ。
20	H-4	羽墨 底面	[13.8]×—×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/4		口縫部：内側し。端部は内張る。ヨコナメ。脚部：三角状を呈し、やや上方に張り出す。側面：内・外に崩壊ナメ。
21	H-4	丸瓦	[18.8]×[14.2]×1.9	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/6		内面：ナメ。凹面：布目。側面：面取り1回。端面：面取り1回。
22	H-4	平瓦	(8.0)×(12.2)×2.9	①球形 ②良好 ③褐色 ④小片		内面：端口叩き。凹面：布目。側面：面取り3回。
23	H-5	球 底面	—×[7.6]×	①球形 ②浅元青 ③褐色 ④1/3		断面部：底縫部：底縫内下部：回転ヘラカツリ。底部：回転ヘラカツリ後、両台貼り付け。袖：横け抜け。
24	H-5	高台輪 底面	[11.2]×[9.4]×6.4	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/4		断面部：口縫部：大きめ外反。底部：ゆるやかに内凹。底部：回転糸切り後。高台貼り付け。内面：ナメ。
25	H-5	高台輪 底面	—×[9.4]×	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/4		断面部：底部：回転糸切り後。高台貼り付け。
26	H-5	羽墨 底面	[12.8]×—×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/4		口縫部：内側し。端部は内張る。ヨコナメ。脚部：三角状を呈し、やや上方に張り出す。側面：内・外に崩壊ナメ。
27	H-5	平瓦	[14.0]×[11.5]×1.6	①球形 ②良好 ③褐色 ④小片		凸面：端口叩き。凹面：布目。側面：面取り2回。端面：面取り1回。
28	H-5	平瓦	(16.9)×(14.2)×2.2	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/6		凸面：端口叩き後。ナメ。凹面：布目。側面：面取り1回。端面：面取り1回。
29	H-5	平瓦	[20.0]×[15.0]×2.3	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/5		凸面：端口叩き後。ナメ。凹面：布目。側面：面取り2回。端面：面取り1回。
30	H-5	平瓦	[12.0]×[12.3]×2.1	①球形 ②良好 ③褐色 ④小片		凸面：端口叩き。凹面：布目。側面：面取り1回。端面：面取り1回。
31	H-5	丸瓦	(23.1)×(12.2)×1.8	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/4		内面：端口叩き後。ナメ。凹面：布目。側面：面取り1回。
32	H-2	高台輪 底面	—×7.3×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/2		断面部：底縫部：底縫内下部：回転ヘラカツリ。底部：回転ヘラカツリ後、高台貼り付け。
33	H-6	球 底面	[13.0]×[7.8]×4.6	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：ゆるやかに外反。底部：回転糸切り。
34	H-6	高台輪 底面	[13.8]×—×—	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：口縫部：底縫的に立ち上がる。
35	H-6	高台輪 底面	—×[11.6]×	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/8		断面部：足の高台部。底部との接合部で削離。
36	H-6	平瓦	(9.0)×(7.4)×1.5	①球形 ②良好 ③褐色 ④小片		凸面：ナメ。凹面：端口叩き後。ナメ。凹面：端口叩き後。ナメ。側面：面取り1回。
37	H-7	平瓦	[21.0]×[20.5]×2.5	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/6		内面：端口叩き後。ナメ。凹面：端口叩き後。ナメ。側面：面取り2回。其当部：界縫による外縫に強化、内縫又は内張。
38	H-7	平瓦	[22.7]×[15.5]×2.8	①球形 ②良好 ③褐色 ④1/6		内面：端口叩き後。ナメ。凹面：端口叩き後。ナメ。側面：面取り2回。
39	H-9	高台輪 底面	—×[7.8]×	①球形 ②黑色化 ③褐色 ④1/6		断面部：底縫部：底縫内下部：回転ヘラカツリ。底部：回転糸切り後。高台貼り付け。

遺傳子番号	回数	形態	口徑・深さ・高さ(cm) 長さ・幅・厚さ(cm)	①脚部 ②毛脚 ③毛脚 ④脚付度	空洞成 長成度	回種の特徴・整形・調整技術
40	H-12	高白脚 底脚	- - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/6	組織型。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。	
41	H-12	丸足	(9.5) + (8.6) + 2.6	①脚部 ②脚好 ③毛脚 ④1/7-9白色 ⑤小片	凸面：ナメ。凹面：布目。糸切り版。側面：面取り1回。端面：面取り1回。	
42	H-8	縫 底上 底脚	[17.8] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/6	口縫部～内面にナメ。体部上位：無調節。体部中～底部：手持ちヘラケツリ。	
43	H-8	脚 底上 底脚	[12.3] + [8.0] + 4.4	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/6白色 ⑤小片	組織型。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。底部：回転ヘタ切り版。高台貼り付け。	
44	H-8	縫 底上 底脚	- - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/6白色 ⑤小片	脚部の鏡像。組織型。	
45	H-8	こも石 底直	13.5 + 7.6 + 3.8	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/6	砂呑。裏口：132.7g。	
46	H-8	こも石 底直	14.5 + 6.1 + 3.8	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	砂呑。裏口：132.3g。	
47	H-8	こも石 底直	14.4 + 6.2 + 3.8	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	砂呑。裏口：134.7g。	
48	H-10	縫 底直 底脚	[21.2] + - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/2	内・外面部：コカゲ。口縫部には幅1.5cmの縫隙を有する。	
49	H-10	高白脚 底脚	[11.8] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	組織型。口縫部：小さく外反。体部：ゆるやかに内凹。底部：高台貼り付け。	
50	H-10	縫 底直 底脚	- - [9.3] + - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/3	組織型。脚部外下位：回転ヘタケツリ。底部：回転ヘタ切り後、高台貼り付け。	
51	H-10	縫 底直 底脚	7.9 + 6.6 + 4.4	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	頭が激しく、脚部不明。	
52	H-14	高白脚 底脚	12.0 + [5.4] + [4.5]	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/2	組織型。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。	
53	H-14	高白脚 底脚	[13.8] + 7.6 + 5.8	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/2	組織型。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。白粒子多量に含む。	
54	H-14	縫 底脚	- - [11.0] + - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/2	組織型。脚部外下位：回転ヘタケツリ。底部：高台貼り付け。	
55	H-14	平瓦	[13.3] + [13.7] + 2.3	①脚部 ②脚好 ③毛脚 ④1/2	凸面：ナメ。凹面：布目。側面：面取り1回。	
56	H-11	縫 底直 底脚	[32.8] + - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④小片	内・外面部：コカゲ。口縫部には幅1.5cmの縫隙を有する。	
57	H-11	縫 底直 底脚	10.7 + 9.1 + 3.8	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/2	組織型。口縫部：小さく外反。底部：回転糸切り。	
58	H-11	縫 底直 底脚	13.5 + 5.6 + 3.3	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/3	組織型。口縫部：内側に、底部：回転糸切り。内面：ミガキ。黑色死処。	
59	H-11	羽根 底脚	[17.2] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	口縫部：内側に、底部：内張り。コカゲ。脚部：三角状を呈し、やや上方に張り出す。側面：内側に、底部：内張り。	
60	H-11	羽根 底脚	[18.7] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	口縫部：内側に、底部：内張り。コカゲ。脚部：三角状を呈し、木手に張り出す。側面：内側に、底部：内張り。	
61	H-11	羽根 底直	[19.6] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/2	口縫部：内側に、底部：内張り。外方に突出。コカゲ。脚部：二枚足を呈し、上方に張り出す。側面：内・外面部：コカゲ。	
62	H-11	縫 底上 底脚	[13.6] + - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/5	組織型。口縫部：小さく外反。輪：抜け前け。	
63	H-11	縫 底直 底脚	12.6 + 6.9 + 4.4	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④4/5	組織型。口縫部：小さく外反。	
64	H-11	縫 底直 底脚	[12.7] + 7.2 + 2.7	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/3	組織型。口縫部：小さく外反。底部：回転ヘタ切り後、高台貼り付け。輪：抜け前け。	
65	H-11	耳直 底直 底脚	[10.5] + 4.5 + 2.9	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④4/5	組織型。口縫部：小さく内凹。底部：回転糸切り。内面：帯状に灰輪がみられる。	
66	H-11	鶴石 底直	16.8 + 4.6 + 2.3	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	風の谷行。裏口：183.9g。	
67	H-11	乳製品	7.6 + 0.4 + 0.5	①- ②- ③- ④- ⑤- ⑥-	頭が激しく、脚部不明。	
68	H-11	平瓦	[11.5] + [10.5] + 1.9	①脚部 ②脚好 ③毛脚 ④小片	凸面：ナメ。凹面：布目。側面：面取り1回。端面：面取り1回。	
69	H-11	羽根 底脚	(9.1) + [12.0] + -	①脚部 ②脚好 ③毛脚 ④小片	凸面：ナメ。凹面：糸切り版。側面：面取り1回。端面：面取り1回。	
70	H-13	高白脚 底直 底脚	[15.6] + [7.2] + 4.8	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/3	組織型。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。白粒子の混入多く。	
71	H-13	高白脚 底直 底脚	[13.9] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	組織型。口縫部：内側に、底部：内張り。コカゲ。	
72	H-13	高白脚 底直 底脚	[11.9] + 6.4 + 3.9	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/3	組織型。口縫部：内側に、底部：内張り。	
73	H-13	高白脚 底直 底脚	[14.8] + - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/3	組織型。口縫部：内側に、底部：内張り。	
74	H-13	高白脚 底直 底脚	[12.8] + - - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	組織型。口縫部：内側に、底部：内張り。	
75	H-13	高白脚 底直 底脚	- - [7.5] + - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	組織型。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。	
76	H-13	高白脚 底直 底脚	- - 6.7 + - - -	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	組織型。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。	
77	H-13	高白脚 底直 底脚	[10.7] + [7.0] + 6.6	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④1/4	組織型。体部～口縫部：ゆるやかに内凹し、底部：小さく外反。底面：足場の両角を削り付け。	
78	H-13	縫 底直 底脚	10.2 + 5.4 + 3.3	①脚部 ②脚化組 ③毛脚 ④4/5	組織型。口縫部：小さく外反。底面：回転糸切り。	

遺物番号	出土地	形態	口径・底径・高さ(cm) 長さ・幅・厚さ(cm)	①縦断 ②横断 ③色調 ④運び方	発掘の特徴・整形・調整技術
79	H-13 床面 直面	坪 直面	12.8 × 3.5 × 4.5	①縦断 ②横断 ③赤褐色 ④穴開	輪郭整列。口縫部：肥厚し外反。底部：回転水切り。
80	H-13 床面 直面	[6.6] × — × —		①縦断 ②横断 ③赤褐色 ④穴開 ⑤1/8	口縫部：内側し、輪郭は内張る。ヨコナメ。腰部：三角状を呈し、水平に張り出す。脚部：内・外脚端ナメ。
81	H-13 床面 丸瓦	平瓦	(20.6) × (12.0) × 2.8	①縦断 ②横断 ③赤褐色 ④穴開 ⑤1/8	凸面：斜め子引き。凹面：舟目。糸切り風。
82	H-13 床面 丸瓦	丸瓦	(5.6) × (12.0) × 2.7	①縦断 ②横断 ③赤褐色 ④穴開 ⑤小片	凸面：鍛打叩き後。ナメ。凹面：舟目。側面：面取り1回。
83	H-13 床面 丸瓦	丸瓦	[9.3] × [12.5] × 3.5	①縦断 ②横断 ③赤褐色 ④穴開 ⑤小片	凸面：鍛打叩き後。ナメ。凹面：布目。側面：面取り2回。
84	H-13 床面 こじ石	こじ石	11.3 × 3.4 × 4.7	①— ②— ③— ④穴開	粗粒安山岩。重さ：349.1g。
85	H-15 坪面 直面	坪面 直面	15.3 × 3.3 × 2.5	①縦断 ②横元吸 ③白ば地形	輪郭整列。外表面には陥没痕らしい。側み縫：貼り付け。内側に「かえり」がつく。
86	H-15 坪面 直面	坪 直面	[13.6] × [9.1] × 2.7	①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/3	輪郭整列。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。底部：回転ヘラ切り。
87	H-15 坪面 理上 直面	坪 直面	[14.6] × [10.2] × 3.9	①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/8	輪郭整列。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。底部：回転ヘラ切り後、両面貼り付け。
88	H-15 便 直面	[33.7] × — × —		①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/4	内・外面：ヨコナメ。側縫：腰き気味に立ち上がる。口縫部：端端は組1cmの縦帶となる。
89	H-15 坪 土面	坪 土面	11.6 × — × 3.6	①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/2	口縫部～内面：ナメ。体部上位：無調整。体部中～底部：手持ちヘラケズリ。
90	H-15 坪 直面	[13.0] × — × 3.3		①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/3	口縫部～内面：ナメ。体部上位：無調整。体部中～底部：手持ちヘラケズリ。
91	H-15 坪 土面	[19.7] × — × 8.7		①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/3	口縫部～内面：ナメ。内底のナメは強い。体部上位～底部：手持ちヘラケズリ。
92	H-15 坪 直面	[21.2] × — × —		①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/4	内面～口縫部外側：ナメ。側縫上位：横位～斜位～カケズリ。
93	H-15 坪 土面	[24.0] × — × —		①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/2	内面～口縫部外側：ナメ。側縫上位：横位～斜位～カケズリ。
94	W-20 坪面 理上 直面	坪面 直面	[17.8] × — × —	①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/4	輪郭整列。天井部上位：回転ヘラケズリ。内側に「かえり」がつく。
95	W-20 坪面 理上 直面	坪 直面	[13.6] × — × —	①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/6	輪郭整列。体部～口縫部：直線的に立ち上がる。胎土に長石粒の混入多い。
96	W-20 坪面 理上 直面	平瓦	(8.5) × (12.4) × 2.8	①縦断 ②横断 ③赤褐色 ④穴開 ⑤1/8	凸面：ナメ。凹面：舟目。側面：面取り2回。輪郭：面取り2回。
97	D-37 高台 直面	— × 6.6 × —		①縦断 ②横元吸 ③白色 ④1/2	輪郭整列。底部：回転水切り後、黄苔貼り付け。
98	P-42 坪 直面	[11.5] × 6.0 × 4.2		①縦断 ②横元吸 ③赤褐色 ④1/2	輪郭整列。体部～口縫部：ゆるやかに外反。底部：回転水切り。口縫底部に傷付。

VI まとめ (Fig. 6)

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁、染谷川と牛池川に挟まれた、北西から南東にのびる台地上に立地している。上野国府推定城の北西部に位置し、西側には国分僧寺、北側には国分尼寺が隣接する地域であり、遺跡内の微地形は北西から南東に向かって次第に低くなる。

今回の調査では奈良・平安時代～中世・近世に亘る遺構を確認し、縄文時代以降の多種・多様な遺物を検出することができた。この中で量的な主体を占めるのは8世紀から11世紀にかけての遺構と遺物である。

ここでは、本調査で確認した遺構を、元総社蒼海遺跡群での従来の分類に従い、Ⅰ期（～7世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以後）の3期に大別して概観し、まとめとする。

Ⅰ期（～7世紀前半：律令期以前）

今回の調査では、縄文時代前期（諸磕b・c式期）・中期（加曾利E4式期）の土器、石器の小片が数点出土しているが、遺構は検出されていない。縄文時代の竪穴住居跡・土坑は、散発的な検出状況ではあるが、本調査地点北側約60mの元総社小見内VII遺跡で確認されている。

古墳時代では遺構・遺物とともに検出されていない。本調査地点東側の元総社蒼海遺跡（5）では7世紀前半の竪穴住居跡を検出しており、この時期には集落中心からは外れるが、居住地として使われていたと考えられる。

Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭：律令期）

この時期に該当する竪穴住居跡は2軒確認している。ともに調査区南部からの検出で散発的な分布状況である。時期は8世紀代のもので、主軸方位はN-80°-EとN-88°-Eを示し、規模は住居跡の東西辺で4m前後である。竈は東壁に付設され、構築財として、主に粘土を使用しており、瓦の使用は確認していない。出土した土師器環は半球形～やや平底のもので、土師器裏は口縁部の断面形がゆるやかな「く」の字状を呈するものである。須恵器環は高台を有し、环蓋には「かえり」が付いている。本調査地点南側約100mの元総社小見内IX遺跡では8世紀代の竪穴住居跡を4軒検出し、主軸方位は本遺跡のものとほぼ同じ数値を示している。

Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以後）

この時期に該当する竪穴住居跡は13軒を確認しており、本調査地点ではⅢ期以降が主体といえる。時期はいづれも10世紀代と考えられ、調査区中央部～西部に分布している。規模は住居跡の東西辺で3m前後、主軸方位は中央～西部検出の11軒がN-73°-E～N-99°-Eで、中央部東端の2軒がN-36°-E、N-155°-Eを測る。集落の縁辺では住居跡主軸が振れる傾向にあるといえようか。検出した竈はすべて東壁の南寄りに付設されている。竈の構築材には、粘土の他に瓦も使用されているようであるが、遺存状況は悪く、詳細不明である。出土遺物は酸化焰焼成の須恵器が主体であり、器種には高台挽や羽釜、小型の环がみられ、釉を漬け掛けした灰釉陶器の挽・皿が一定量含まれている。元総社小見内IX遺跡では10～11世紀代の竪穴住居跡を13軒検出し、主軸方位はN-76°-E～N-116°-E、本調査地点西側約200mの元総社蒼海遺跡（4）では10世紀前半のものを3軒検出し、主軸方位はN-99°-E～N-119°-Eであり、本遺跡での計測数値の範囲内といえる。

11世紀以降の遺構としては、As-B（浅間山起源：1108年）を埋土に含む溝跡、井戸跡、土坑、ピットをここに含めるが、DB-1号土壤基のようにAs-Bが確認されない遺構にも、判別困難ではあるが、11世紀以降のものが含まれている。本調査では溝跡20条、土坑81基、ピット221口、井戸跡2基を検出し、埋土にAs-Bの混入が確認できたのは溝跡11条、土坑35基、ピット145口、井戸跡2基である。

溝跡はほぼ直線的に走行し、南北方向の主軸方位がN—5°—E～N—27°—E、東西方向がN—99°—E～N—106°—Eを測る。各溝跡の時期差を考慮しなければ、並走、或いは直交の位置関係といえる。W—8号溝跡からは小片はあるが、近世以降の瓦が出土しており、他の溝跡も近接した時期であろうか。尚、As-Bを含まない溝跡は9条検出している。そのうち4条は蛇行気味に走行し、主軸方位はN—33°—W～N—38°—Wを測り、並走の位置関係にあり、明らかに前述した11条の溝跡とは異なる形態、主軸方位を示している。重複関係からAs-Bの降下以前の溝といえるが、堅穴住居跡との新旧を明確にし得なかった。W—20号溝跡の出土遺物からは10世紀代と考えられるが、いずれも小片ばかりで、他の溝からの比較できる遺物もなく、課題としたい。井戸は2m前後掘り下げたが、木枠や石組等の痕跡は検出されなかつた。所謂「円形土坑」もこの時期に含まれ、X—91・92、Y—112・113グリッドに集中している。ピットについては建物や柵列等の復元はできていない。この時期は居住域ではなく、生産域であったことが想定される。

土壤墓は調査区南西隅から1基のみ確認している。元總社蒼海遺跡群（5）では60基に上る墳墓群（土葬墓58基、火葬墓2基）が検出され、当地が継続性と計画性を有する「墓域・聖域」と想定している。本遺跡検出の土壤墓は「墓域」中心部から外れた場所に位置するもので、墓坑形態や葬位の類似から15世紀を中心とした時期と考えられる。

今後も、継続して実施される元總社蒼海遺跡群の発掘調査により、上野国府や蒼海域、さらに周辺集落との関係が解明されていくことを期待したい。

〈引用参考文献〉

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所「元總社小見遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所「元總社小見III遺跡 元總社草作V遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元總社小見IV遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元總社小見VI遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2004年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元總社小見IX遺跡 総社閑泉明神北V遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元總社小見内IX遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年
前橋市埋蔵文化財発掘調査団「元總社蒼海遺跡群（4）」前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2006年

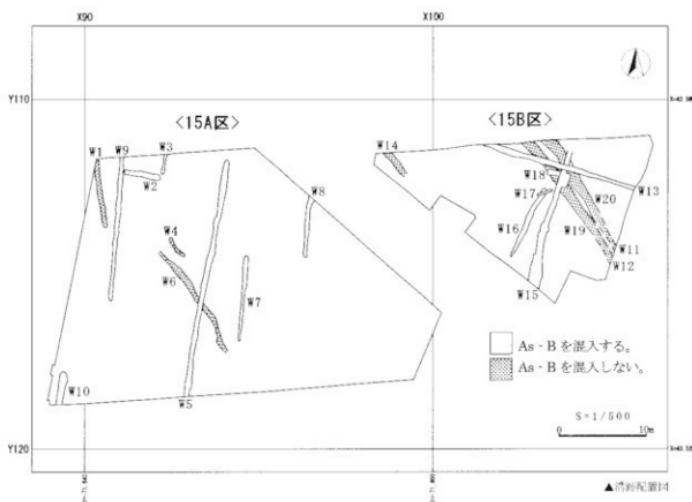
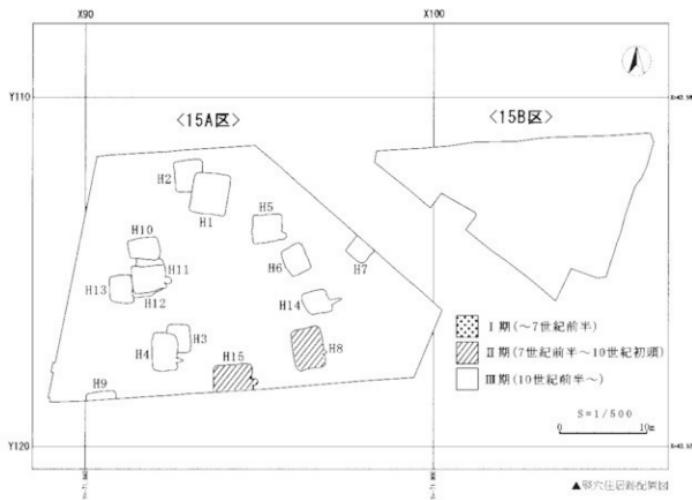


Fig. 6 時期別の堅穴住居跡、溝跡配置図

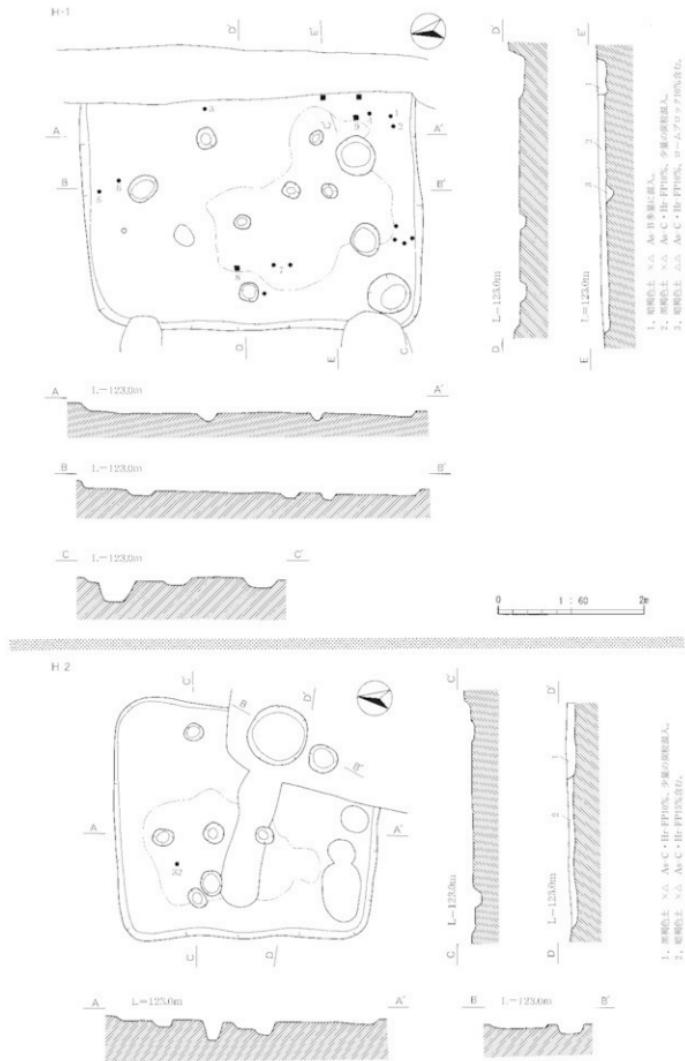


Fig. 7 H-1・2号住居跡

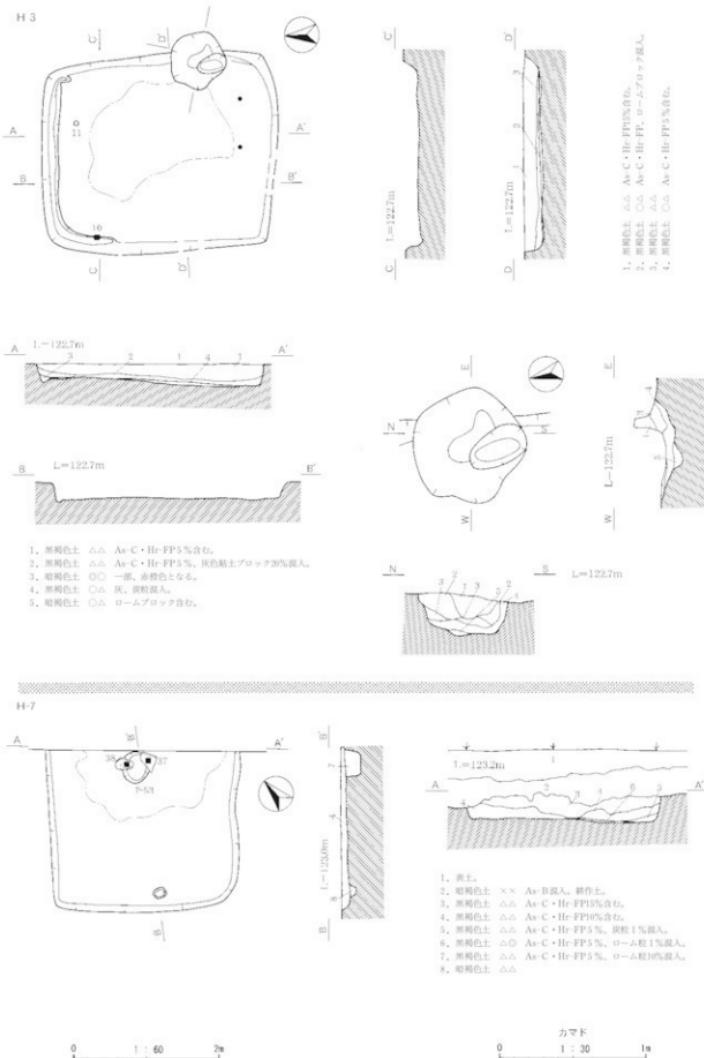


Fig. 8 H-3・7号住居跡

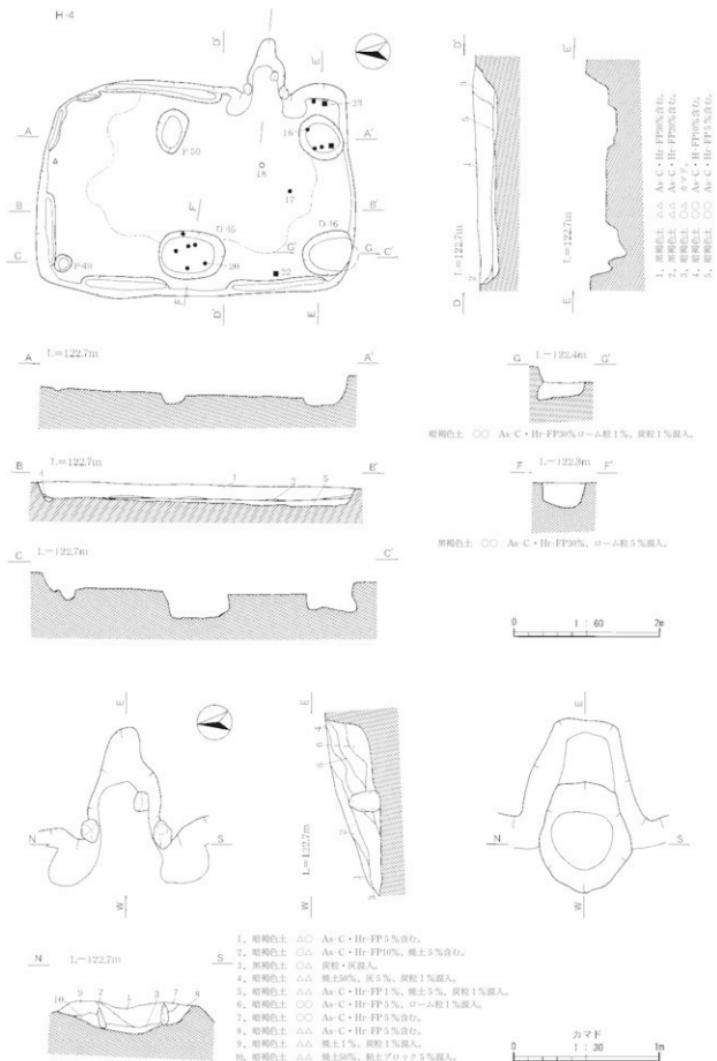


Fig. 9 H-4号住居跡

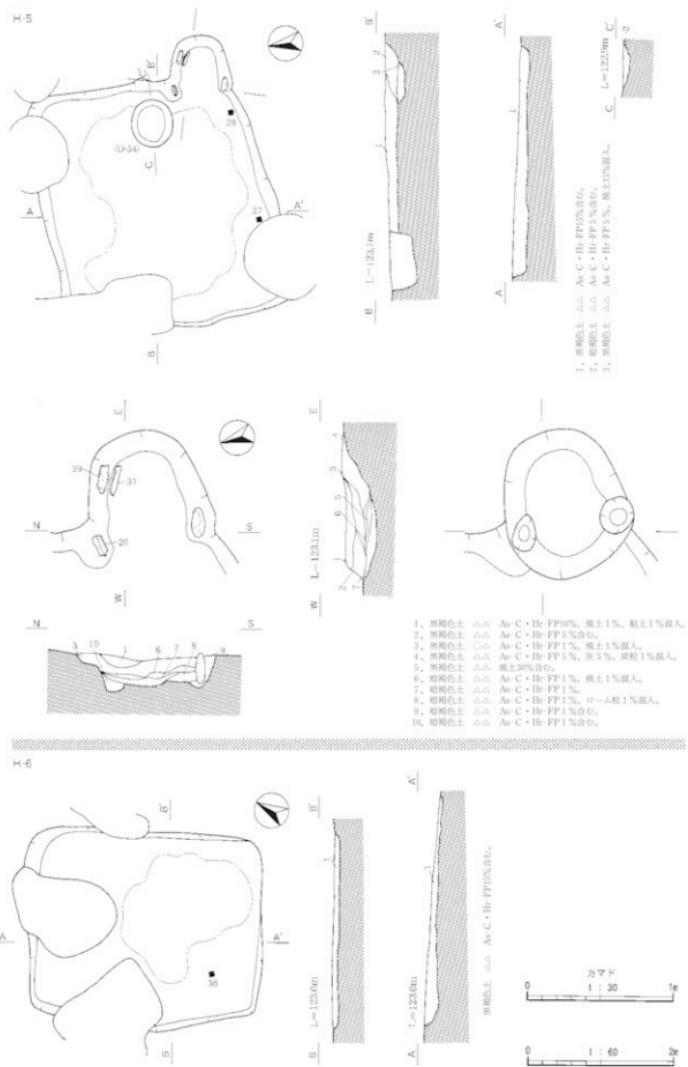


Fig.10 H—5·6号住居跡

H-8

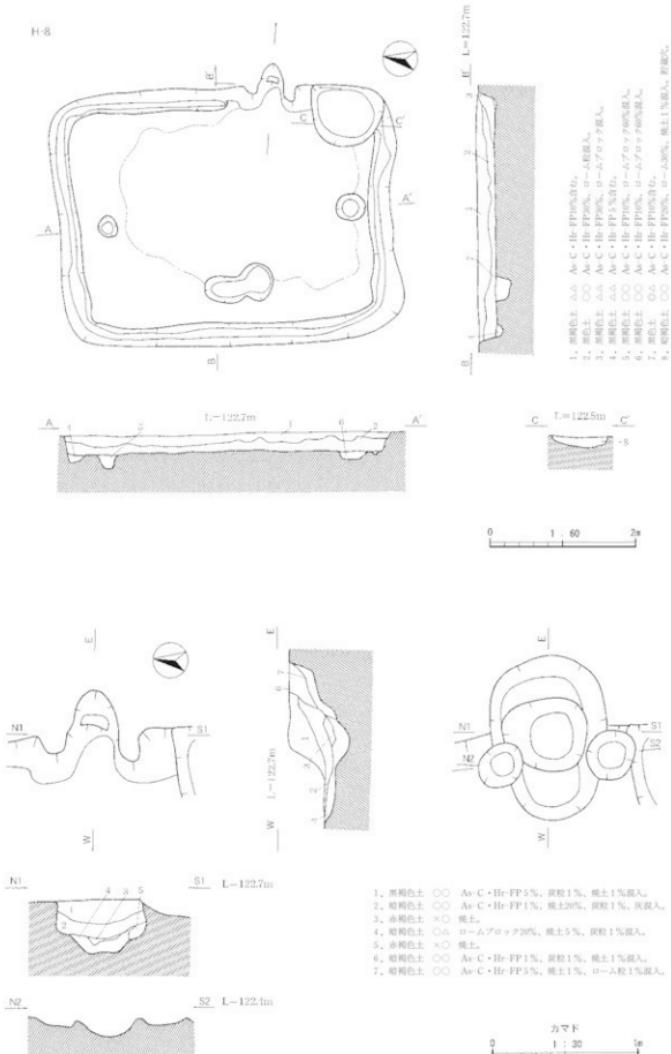


Fig.11 H-8号住居跡

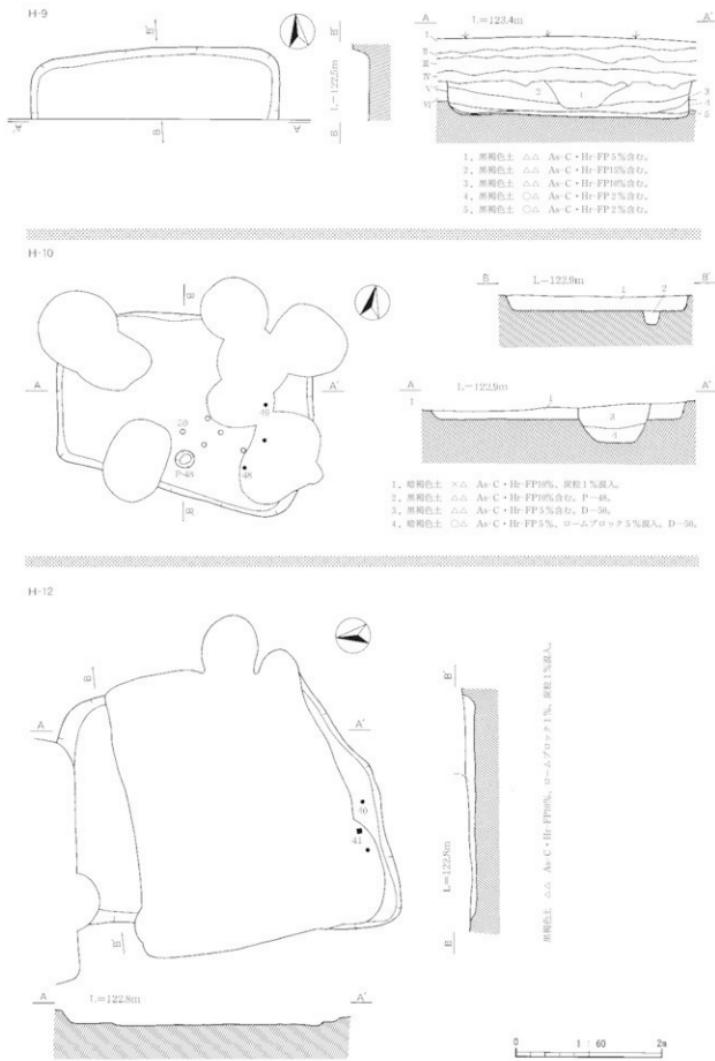


Fig.12 H-9 • 10 • 12号住居跡

H-11

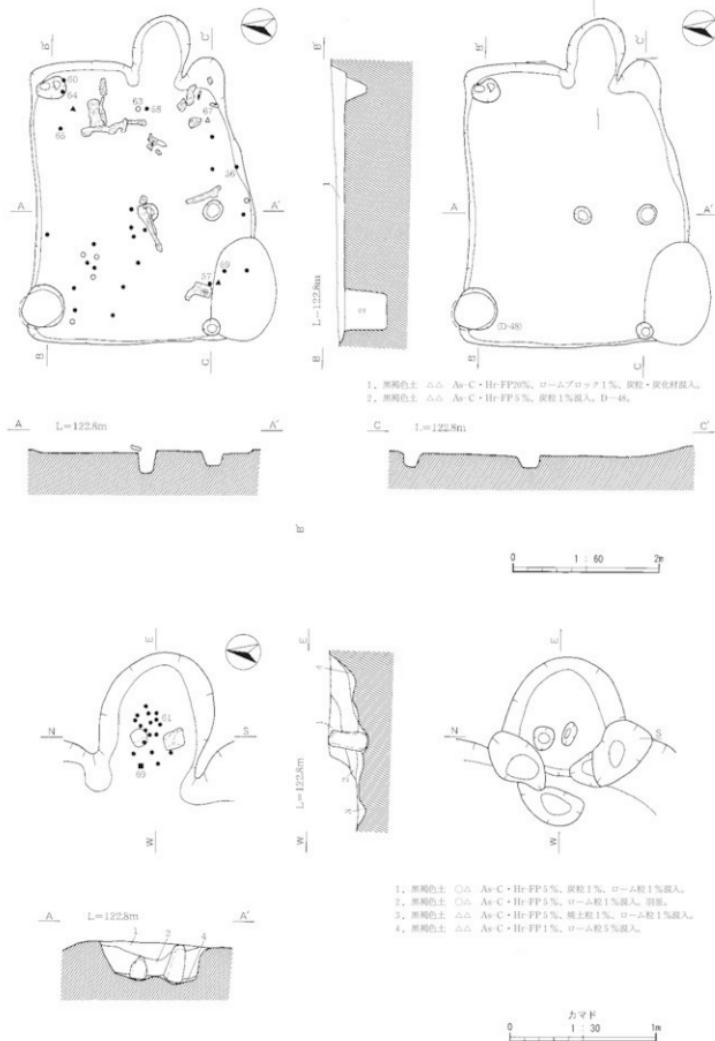


Fig.13 H-11号住居跡

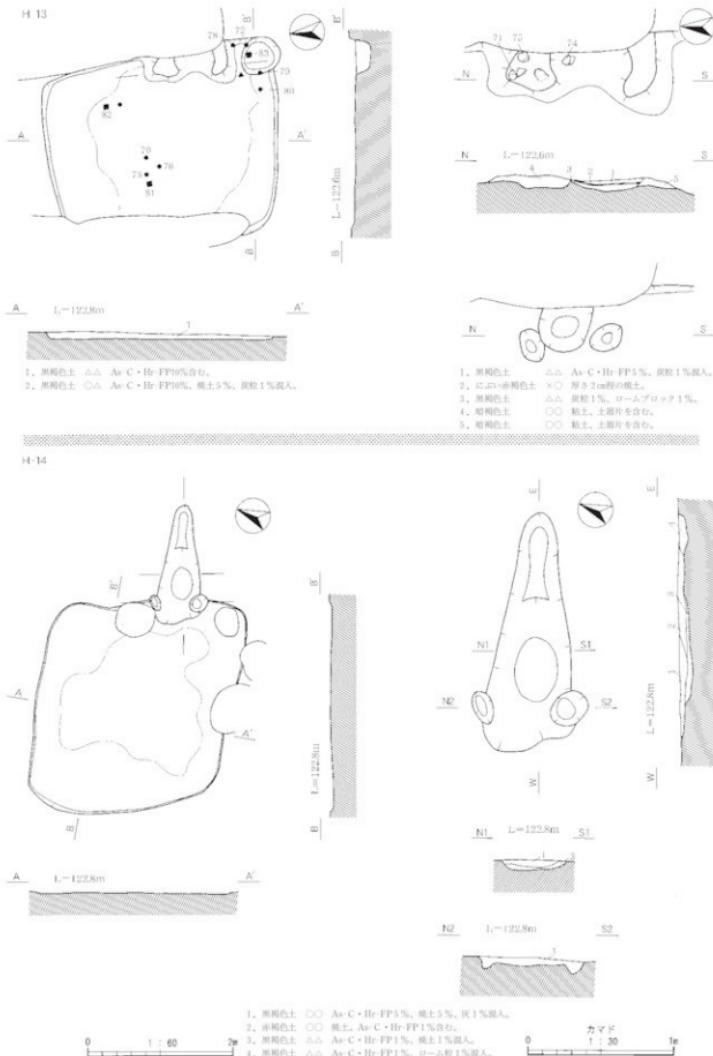


Fig.14 H-13・14号住居跡

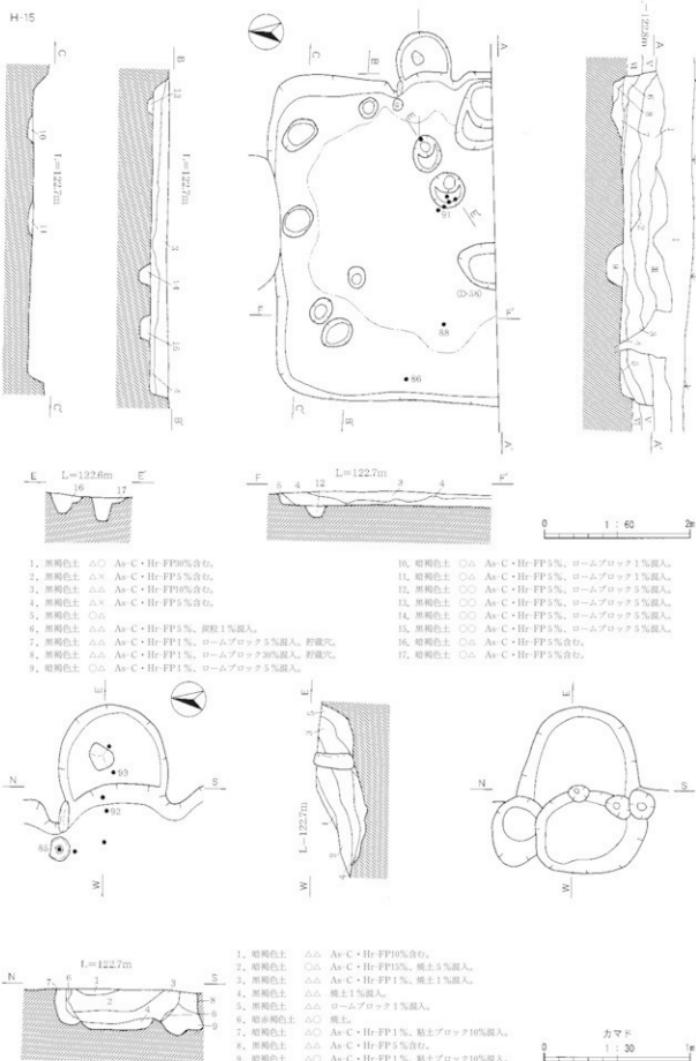


Fig.15 H-15号住居跡

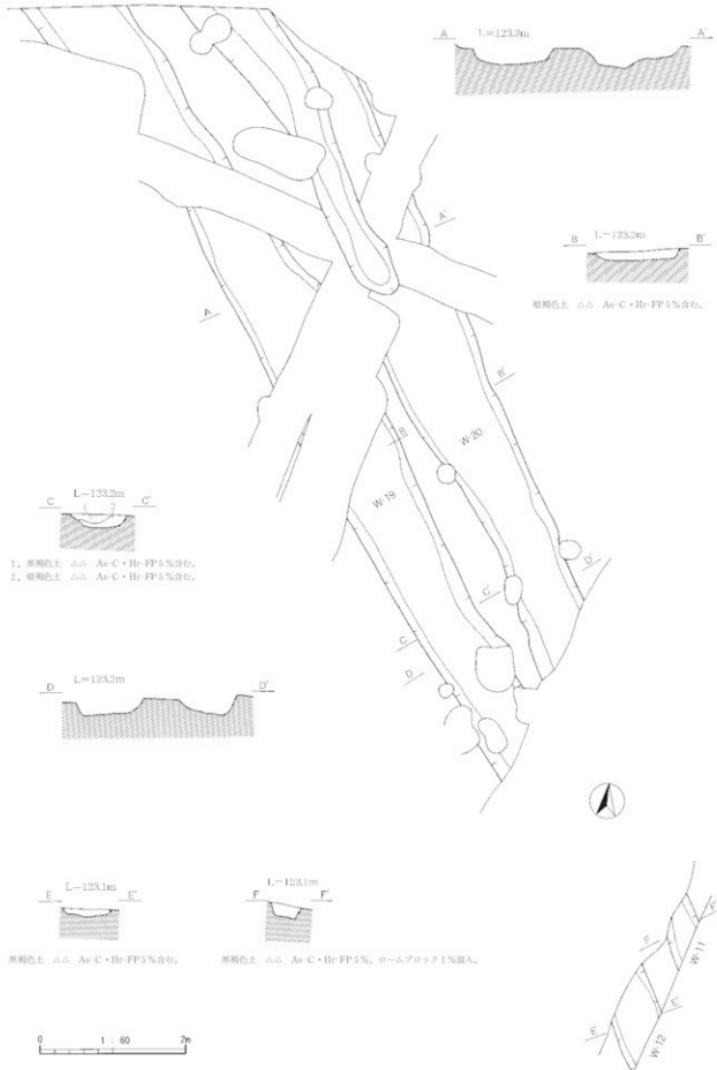


Fig.16 W-11・12・19・20号調跡

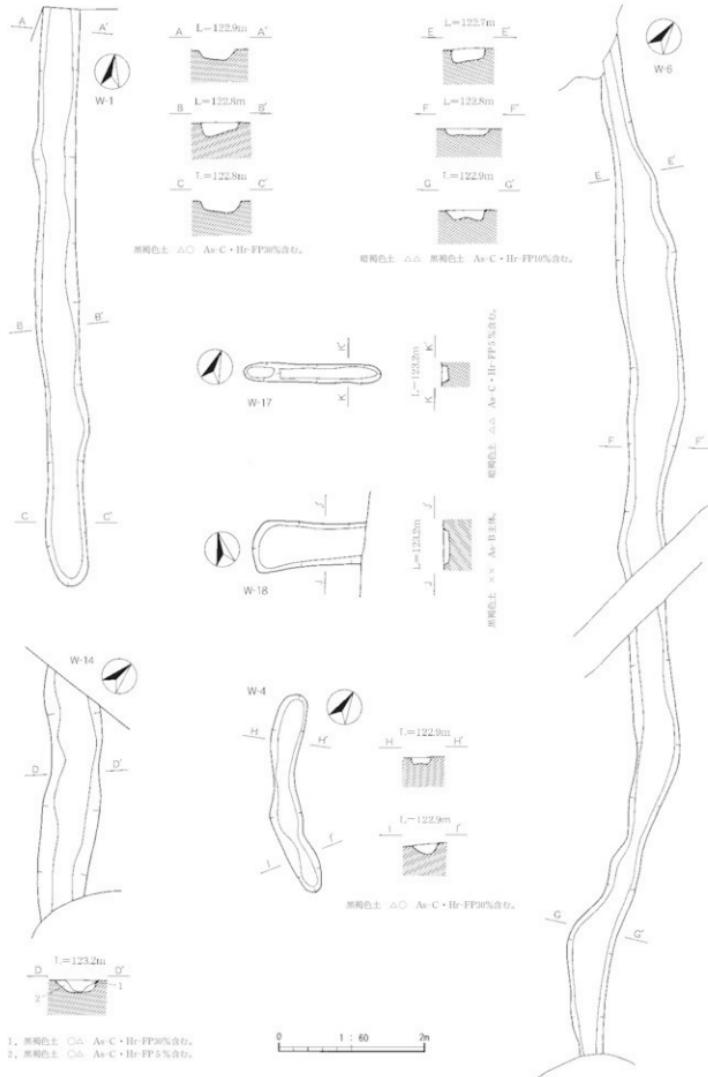


Fig.17 W—1 • 4 • 6 • 14 • 17 • 18号溝跡

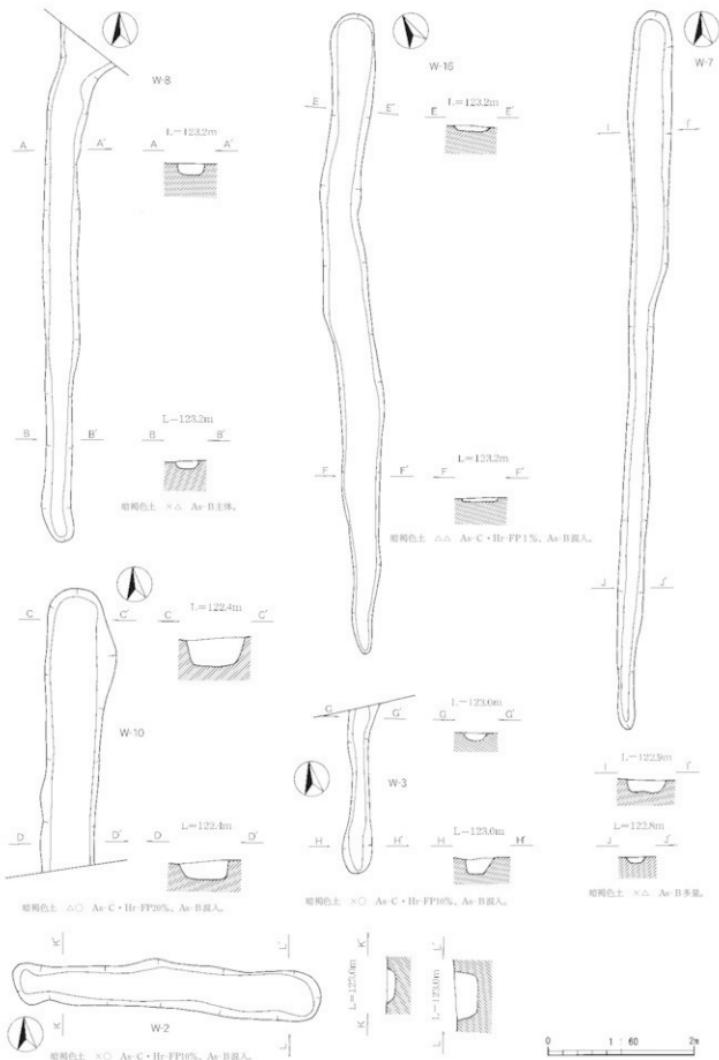


Fig.18 W—2 • 3 • 7 • 8 • 10 • 16号溝跡

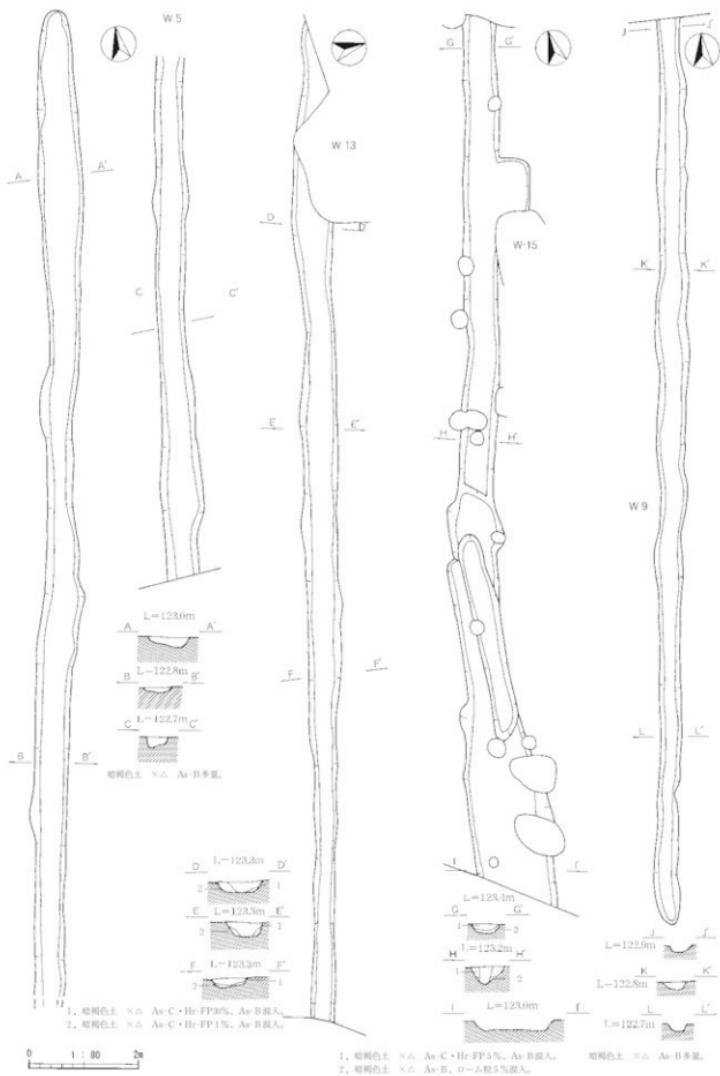


Fig.19 W—5 • 9 • 13 • 15号調跡

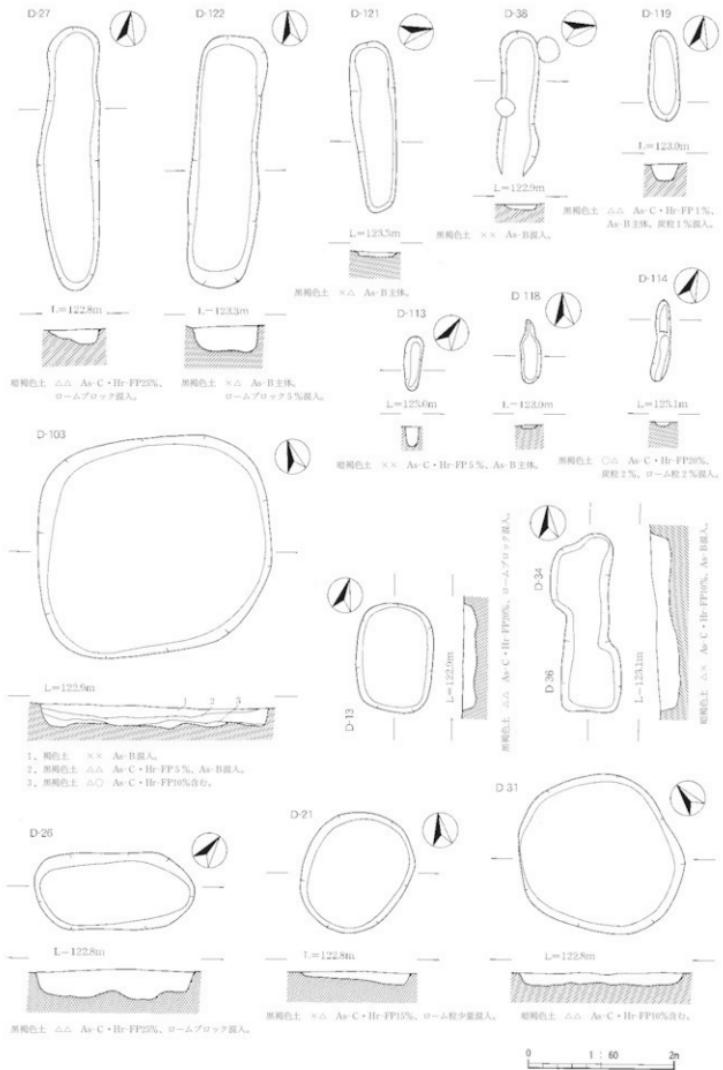


Fig.20 土坑 (1)

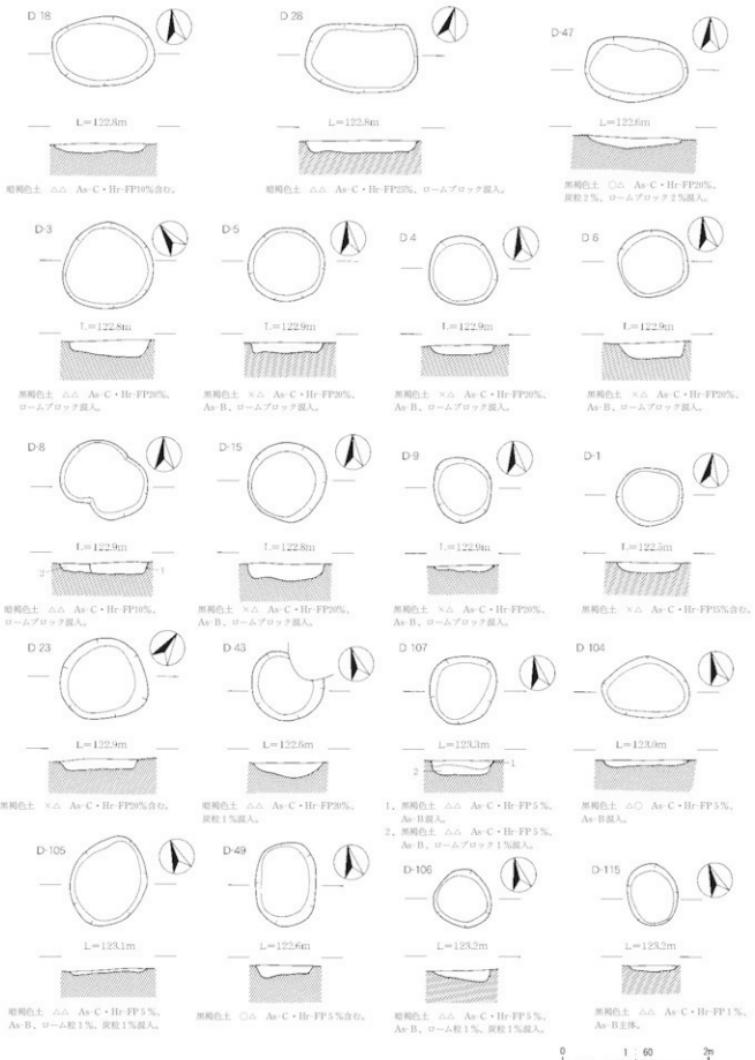


Fig.21 土坑 (2)

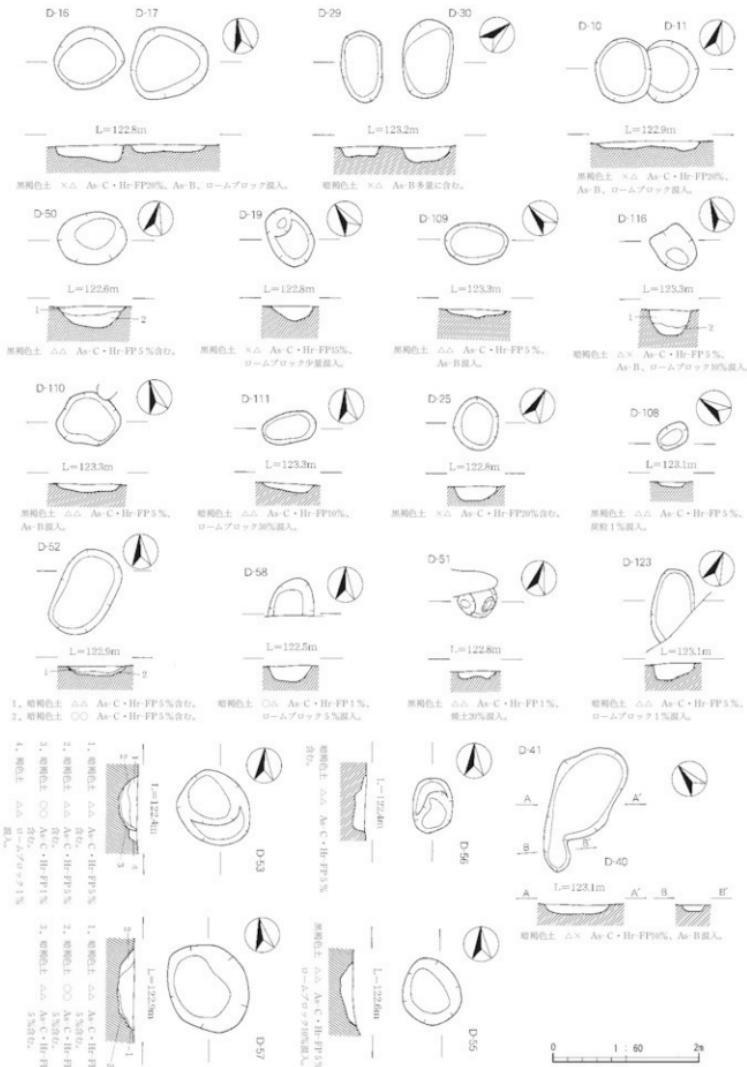


Fig.22 土坑 (3)

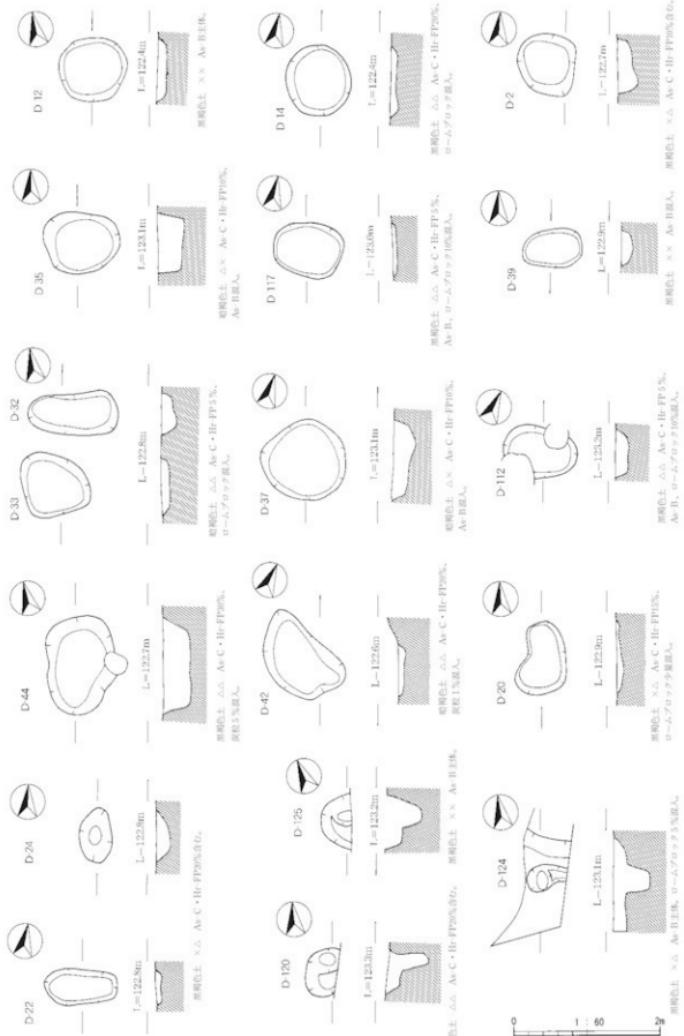


Fig.23 土坑 (4)

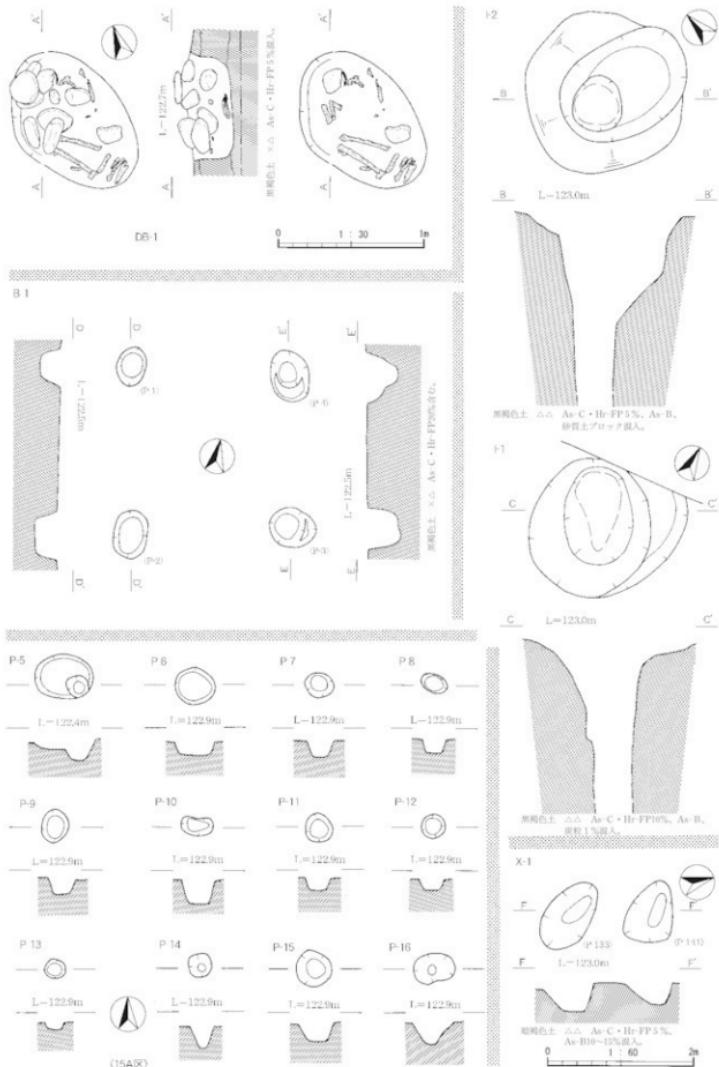


Fig.24 土塁基、井戸、掘立柱建物、ピット (1)

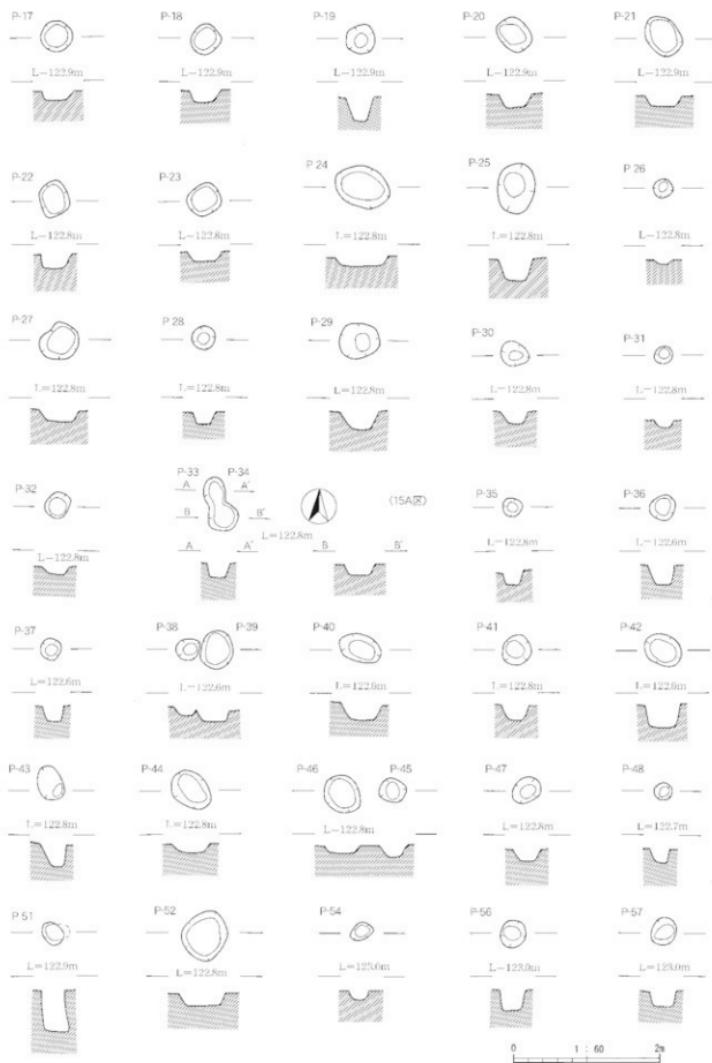


Fig.25 ピット (2)

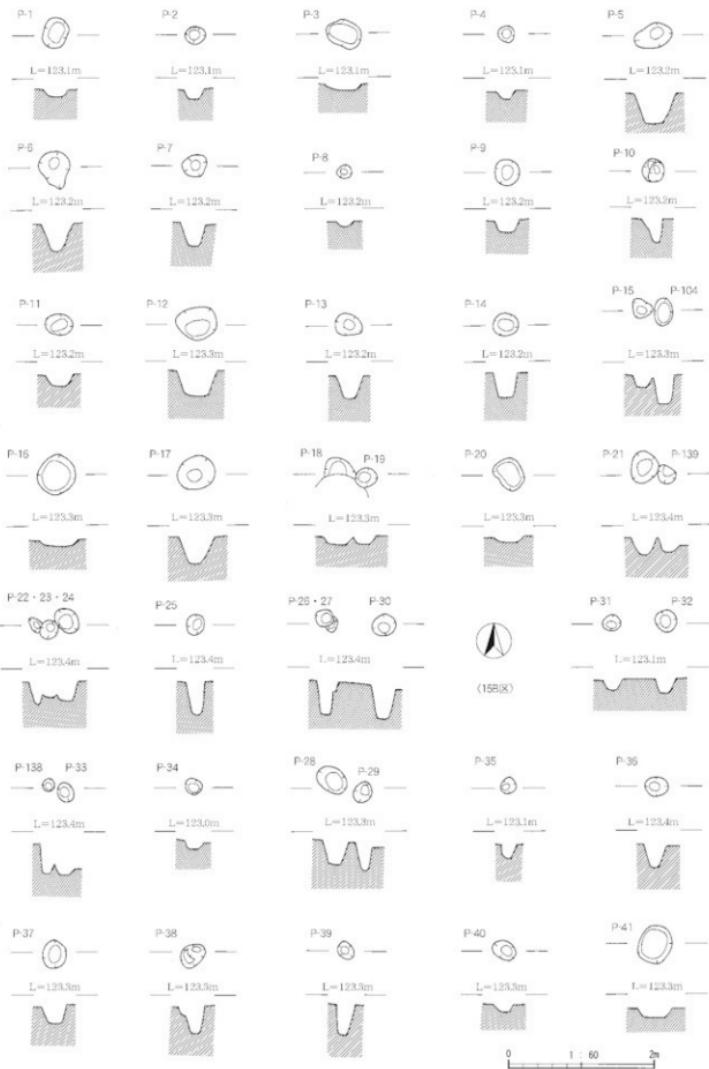


Fig.26 ピット (3)



Fig.27 ピット (4)



Fig.28 ビット (5)

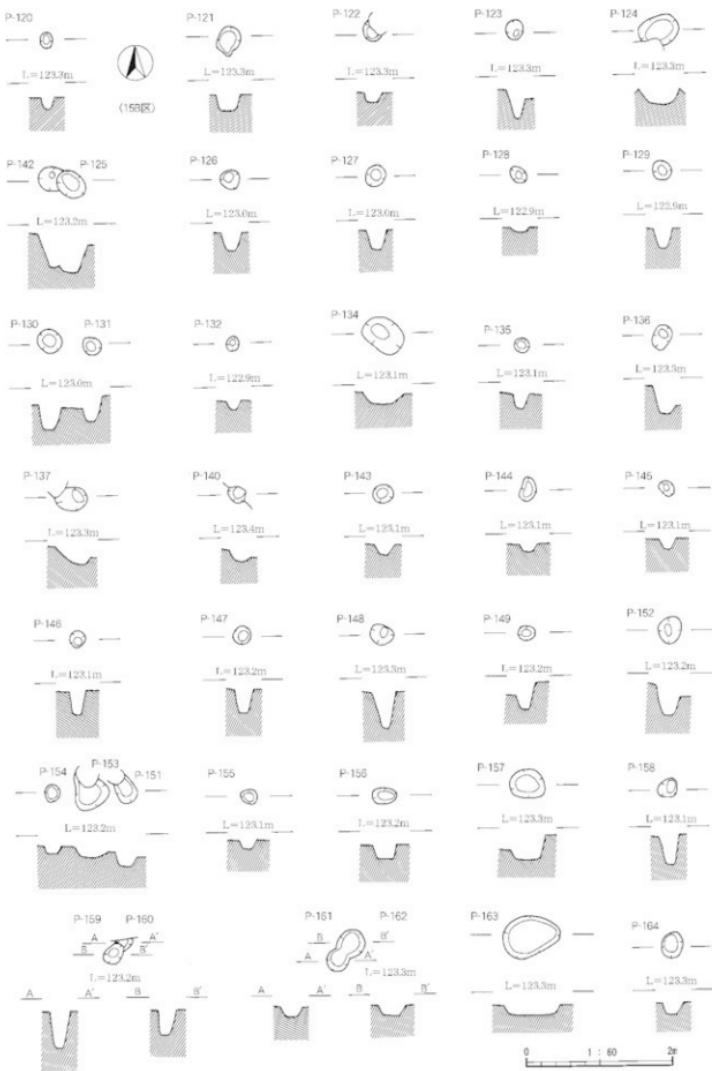


Fig.29 ピット (6)

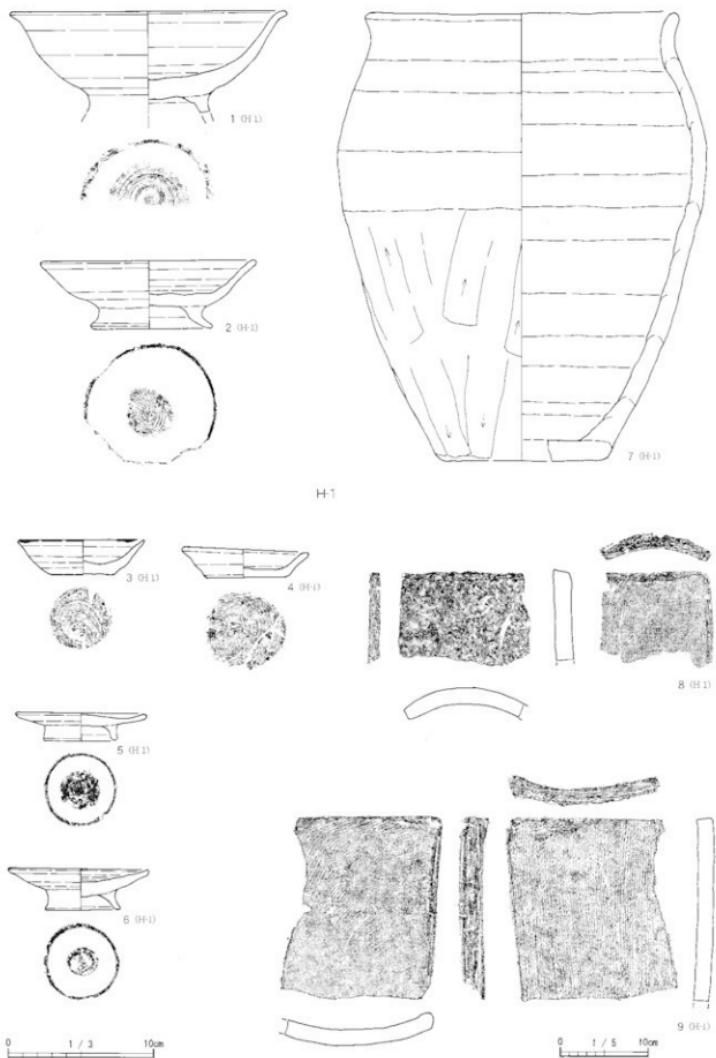


Fig.30 H—1号住居跡出土遺物

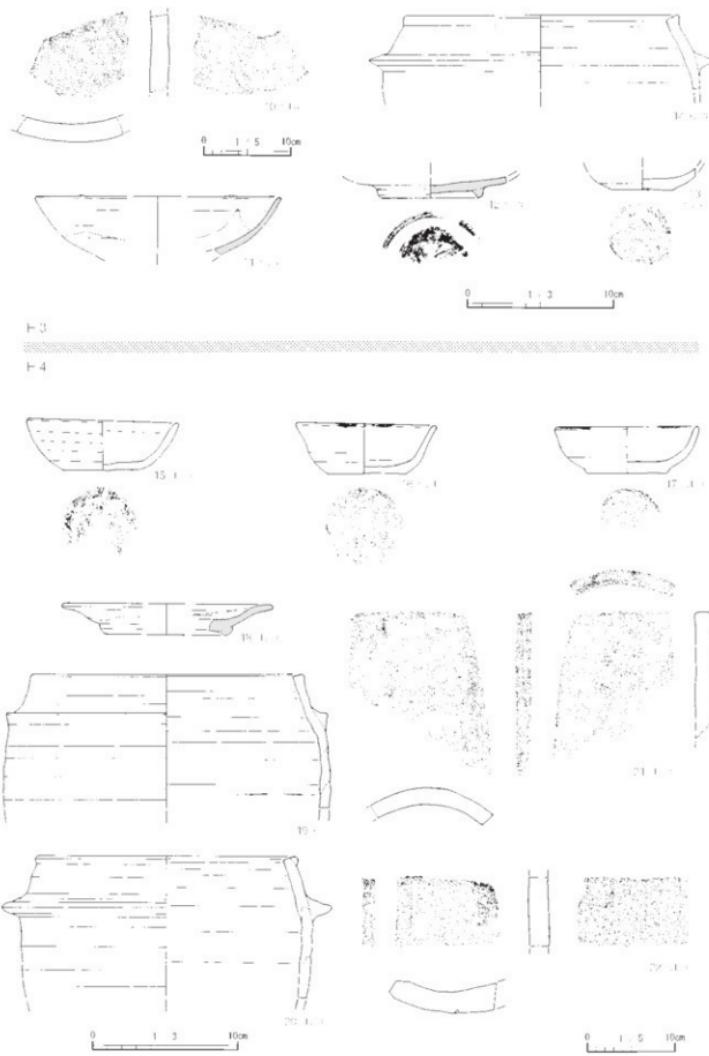


Fig.31 H-3 • 4号住居跡出土遺物

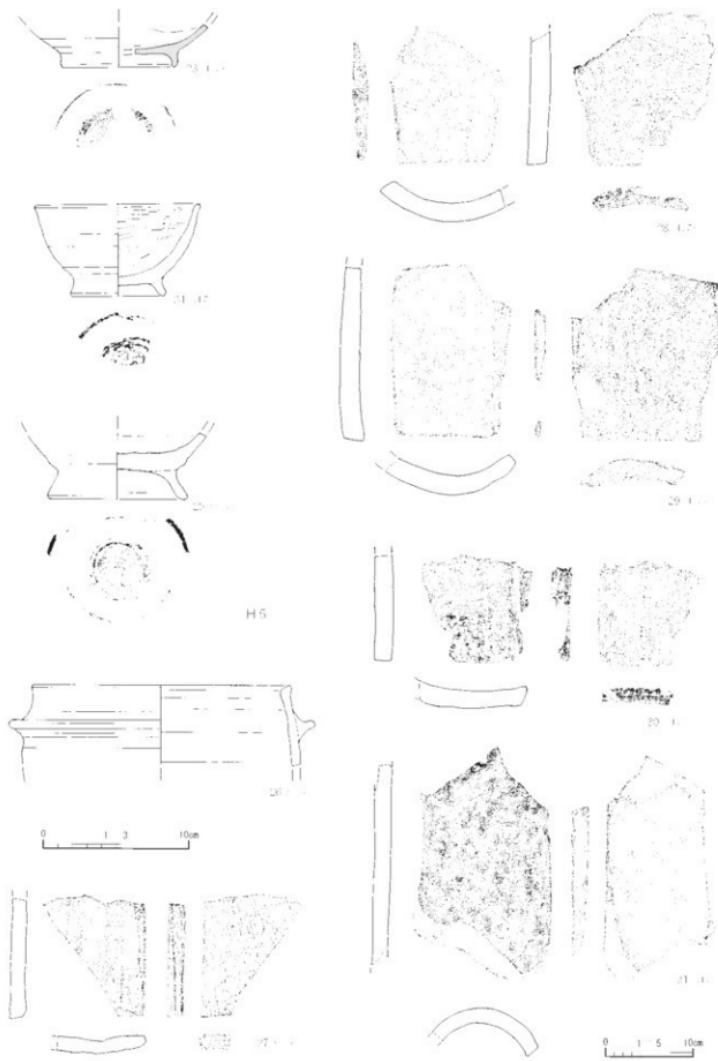


Fig.32 H-5号住居跡出土遺物

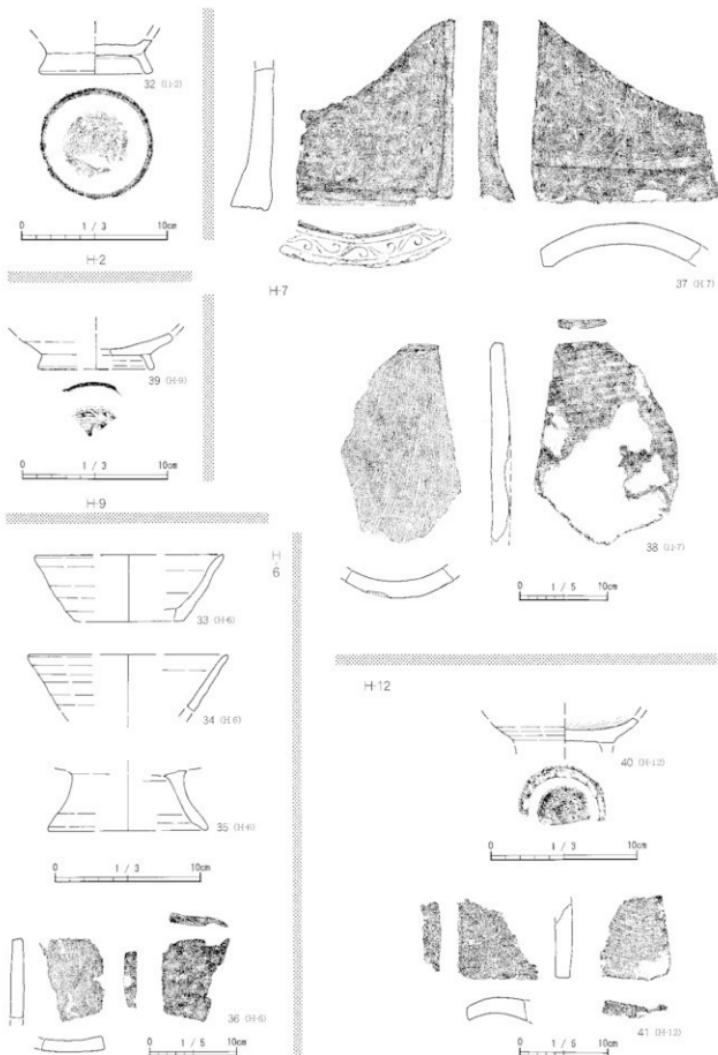


Fig.33 H—2 • 6 • 7 • 9 • 12号住居跡出土遺物

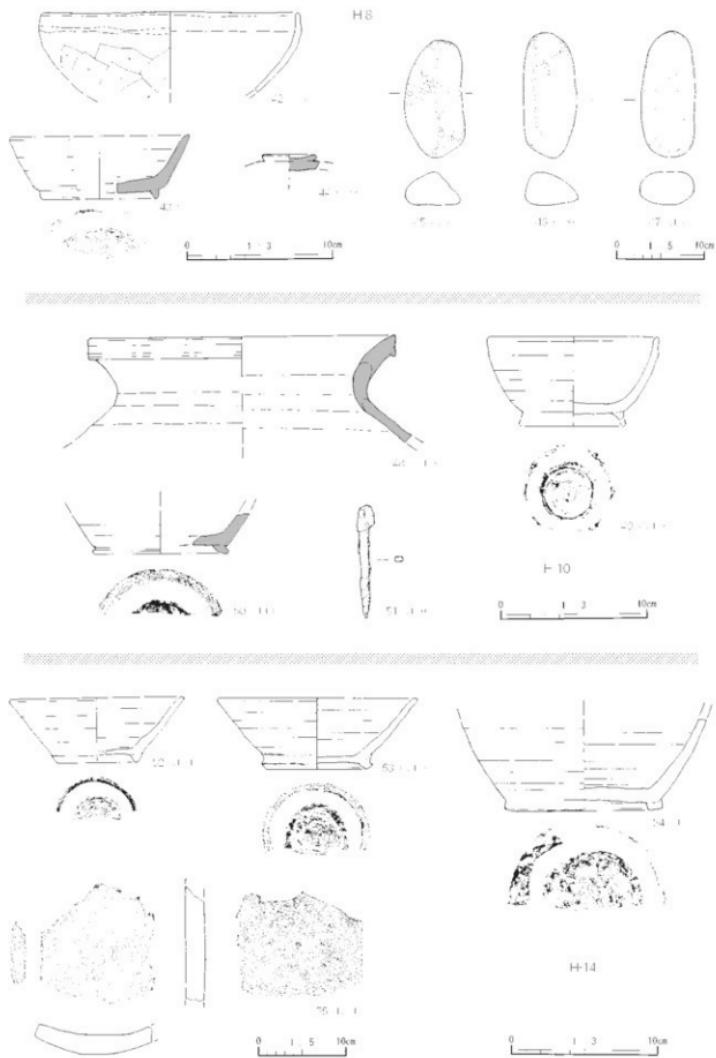


Fig.34 H—8・10・14号住居跡出土遺物

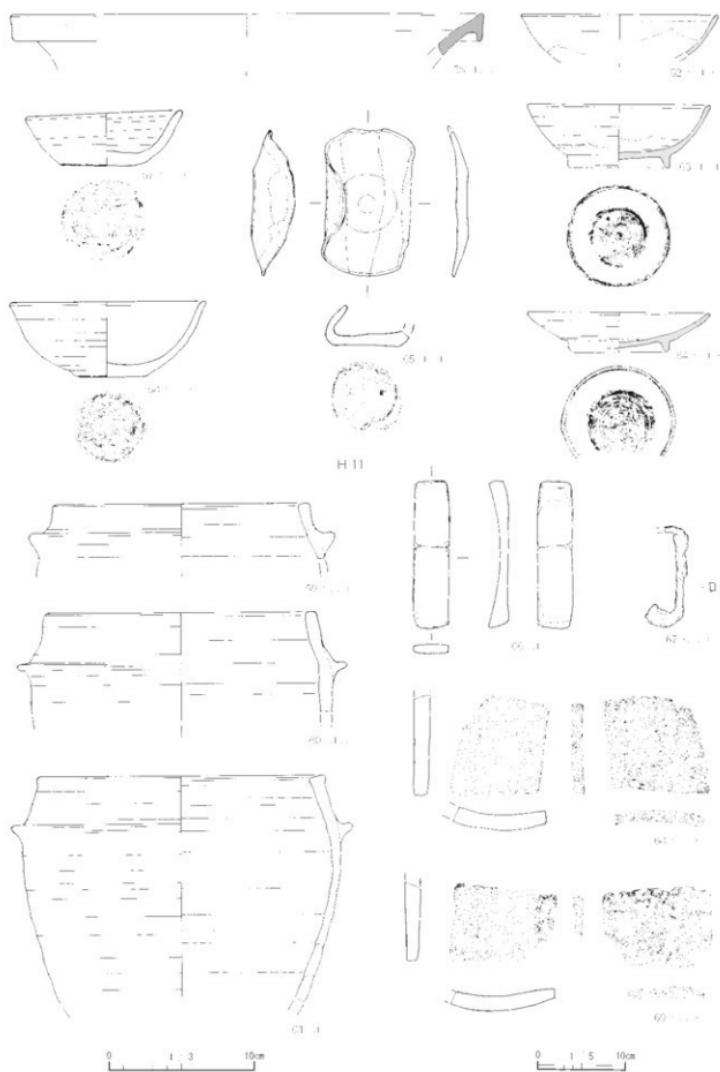


Fig.35 H-11号住居跡出土遺物

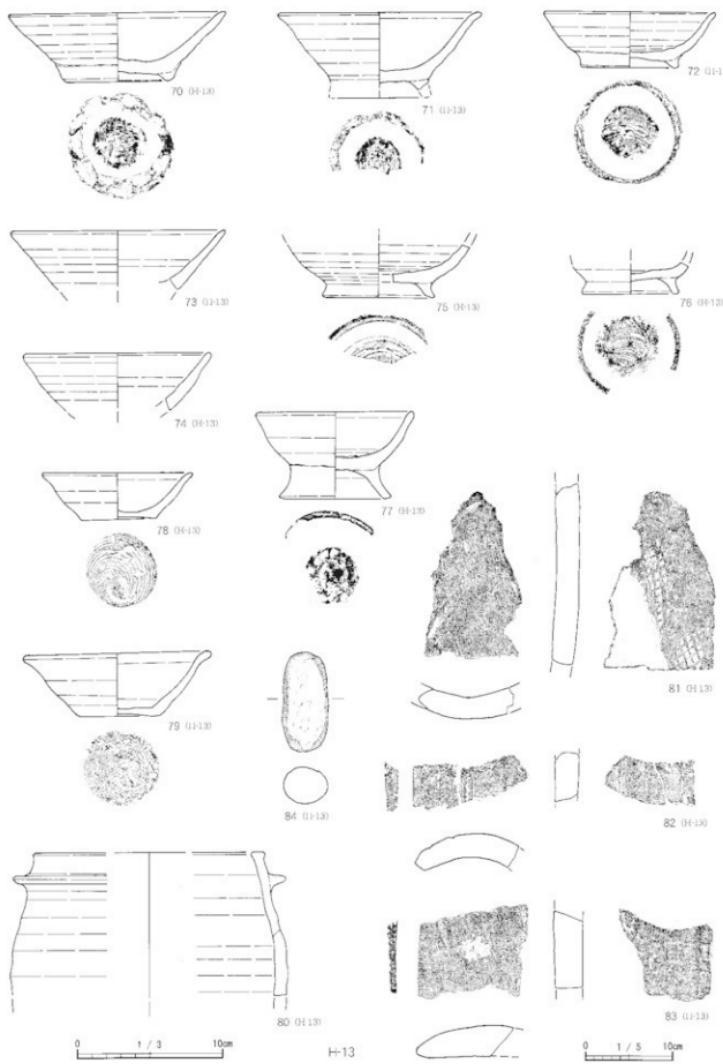
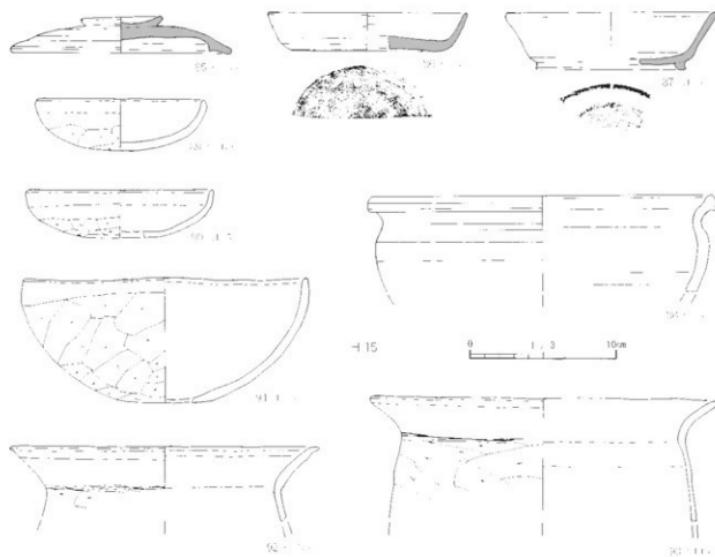


Fig.36 H-13号住居跡出土遺物



W-20

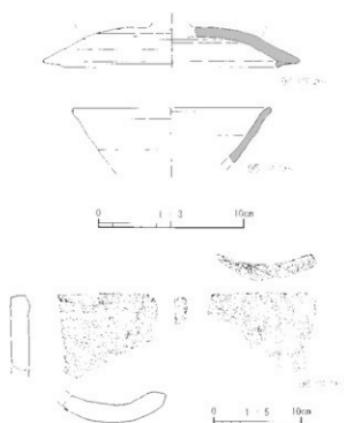


Fig.37 H-15号住居跡、W-20号溝跡、D-37号土坑、P-42号ピット出土遺物

付編 元総社蒼海遺跡群（15）出土人骨

（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団 楠崎修一郎

はじめに

元総社蒼海遺跡群は、群馬県前橋市元総社町に所在する。前橋市教育委員会による発掘調査が、2007（平成19）年10月～同年11月に行われた。本遺跡群の19A130-15遺跡のDB-1号土塙墓より、中世の人骨が出土したので以下に報告する。しかしながら、人骨の残存状態があまり良くないために、報告は主に出土歯について行う。なお、歯の計測は藤田の方法（藤田、1949）に従った。また、歯の比較データは、中近世人は MATSUMURA [松村] (1995) を引用し、現代人は権田（1959）を引用した。

1. 人骨の出土状況

人骨は、長径約110cm【北西—南東】・短径約75cm【南西—北東】・深さ約35cmの楕円形土坑から出土している。

2. 人骨の出土部位

出土人骨の残存状態は悪いが、出土部位は全身にわたる。

3. 副葬品

副葬品は、検出されていない。

4. 被葬者の頭位・埋葬状態

人骨の出土状況から、被葬者の頭位は北西で、埋葬状態は顔面部を西側に向け、右側を下にした横臥（側臥）屈葬で埋葬されたと推定される。この埋葬方法は、中世でも典型的である。なお、本土坑では、多数の石が本被葬者の上に置かれた状態で検出されている。



写真1 DB-1号土塙墓検出状況

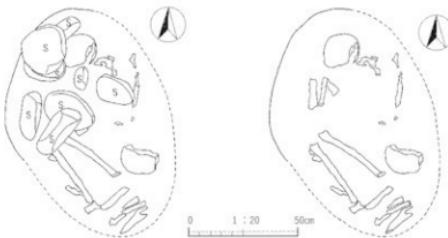


図1 DB-1号土塙墓検出状況
[左：石及び人骨検出状況、右：石を取り除いた状況]

5. 被葬者の個体数

出土人骨には重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

6. 被葬者の性別

出土歯の歯冠計測値が比較的大きく、側頭骨の岩様部も大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。しかしながら、頭蓋骨の骨壁は男性にしては薄い。

7. 被葬者の死亡年齢

出土歯の咬耗度を観察すると、象牙質が線状及び点状に露出する程度のマルティンの2度の状態である。通常であれば、このことから被葬者の死亡年齢は約30歳代となる。しかしながら、本被葬者の上下大臼歯の咬耗度を

観察すると、第1大臼歯の咬耗は象牙質が点状に露出する程度のマルティンの2度の状態であるに対し、第2大臼歯の咬耗はエナメル質のみのマルティンの1度の状態であり、第3大臼歯は咬耗がほとんど無いような状態である。これら、大臼歯の萌出年齢は、第1大臼歯が約6歳・第2大臼歯が約12歳・第3大臼歯が約18歳以上であることを考慮すると、総合的に本被葬者の死亡年齢は約20歳～20歳代であると推定される。

8. 被葬者の古病理

(1) 歯石

出土歯には、わずかな歯石の付着が認められた。

(2) 龈歯

出土歯には、俗に虫歯と呼ばれる齲歯は認められなかった。



写真2 上下切歯～第2 小臼歯咬合面観

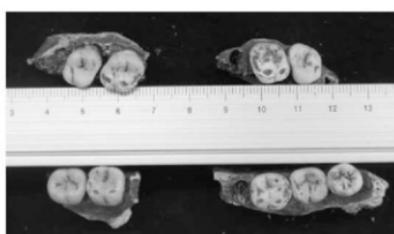


写真3 上下大臼歯咬合面観

表1 沖縄社會遺跡 (IS) DB-1出土骨土木永久保存計測値及び比較表

編目	計測	中世時代人*			江戸時代人*			現代人**		
		74号土坑	Matsuura, 1985	7	7	Matsuura, 1985	7	7	7	7
上	MD	8.71	8.8	8.48	8.29	8.78	8.28	8.67	8.55	
	BL	7.31	7.4	7.29	7.06	7.52	7.06	7.35	7.28	
Iz	MD	6.71	6.9	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05	
	BL	6.41	6.8	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.31	
C	MD	8.11	8.0	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71	
	BL	8.61	8.8	8.56	7.94	8.66	8.03	8.57	8.13	
P1	MD	7.31	7.2	7.35	7.05	7.41	7.23	7.38	7.37	
	BL	9.61	9.7	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43	
P2	MD	6.81	6.8	6.87	6.68	7.00	6.82	7.02	6.94	
	BL	9.21	9.3	9.38	8.88	9.55	9.29	9.41	9.25	
M1	MD	10.610	10.5	10.45	10.09	10.61	10.18	10.68	10.47	
	BL	11.611	11.8	11.81	11.36	11.87	11.39	11.75	11.40	
M2	MD	9.51	9.9	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74	
	BL	11.411	11.7	11.72	11.39	12.00	11.52	11.85	11.31	
M3	MD	—	—	—	—	—	—	8.94	8.86	
	BL	—	—	—	—	—	—	10.79	10.50	
Iz	MD	5.55	5.3	5.42	5.22	5.45	5.32	5.48	5.47	
	BL	5.7	6.2	5.78	5.61	5.78	5.65	5.88	5.77	
C	MD	5.8	5.9	6.04	5.78	6.09	5.97	6.20	6.11	
	BL	6.6	6.4	6.22	5.98	6.29	6.11	6.43	6.30	
P1	MD	2.51	—	6.88	6.55	7.06	6.49	7.07	6.68	
	BL	8.51	—	7.85	7.33	8.04	7.39	8.14	7.50	
P2	MD	2.3	2.7	7.07	6.90	7.33	7.05	7.31	7.19	
	BL	7.8	8.4	8.16	7.29	8.34	7.89	8.60	7.71	
M1	MD	2.21	2.4	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29	
	BL	8.01	8.2	8.49	7.66	8.68	8.39	8.53	8.36	
M2	MD	11.511	11.5	11.56	11.06	11.72	11.44	11.72	11.32	
	BL	10.710	8.1	11.09	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55	
M3	MD	11.311	11.0	11.06	10.65	11.39	10.78	11.30	10.89	
	BL	10.210	10.0	10.55	9.93	10.75	10.21	10.53	10.20	
M4	MD	10.11	9.9	—	—	—	10.96	10.63	—	
	BL	9.6	9.4	—	—	—	10.28	10.02	—	

注1. 頭骨長：IS-DB-1出土骨土木永久保存計測値
注2. 頭骨長：IS-DB-1出土骨土木永久保存計測値
注3. 頭骨長：IS-DB-1出土骨土木永久保存計測値
注4. 頭骨長：MD (頭骨後端後縫合部)・BL (頭骨側面的後縫合部) を使用する。
注5. 頭骨長：MD (頭骨後端後縫合部)・BL (頭骨側面的後縫合部) を使用する。
注6. Matsuura (1985) より引いた。然ち、MATSUURA (1985) に
注7. Matsuura (1985) のデータは無い。

謝辞

本出土人骨を報告する機会を与えていただいた、前橋市教育委員会の梅澤克典氏に感謝いたします。また、本出土人骨に関する考古学的情報を与えていただいた、技研測量設計株式会社の瀬田哲夫氏に感謝いたします。

引用文献

- 藤田恒太郎 1949 歯の計測規準について、「人類学雑誌」、61(1) : 1 - 6.
 権田和良 1959 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67(3) : 47-59.
 MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum Monographs No.9, National Science Museum

図 版



1. 空撮（北方を望む）



2. 空撮（上が北）



1. 空撮（南方を望む）



2. 空撮（西方を望む）



1. 15B区全景（東から）



2. 15B区全景（西から）



3. 15A区全景（北西から）



4. H-8号住居跡作業スナップ（西から）



5. 15B区作業スナップ（北西から）



1. H-1号住居跡（東から）



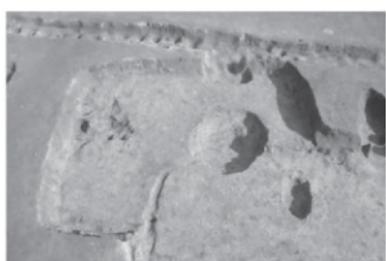
5. H-4号住居跡（西から）



2. H-2号住居跡（東から）



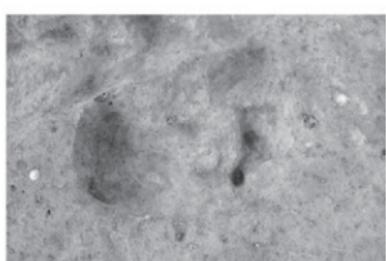
6. H-4号住居跡（西から）



3. H-3号住居跡（西から）



7. H-5号住居跡（西から）



4. H-3号住居跡（西から）



8. H-5号住居跡（西から）



1. H-6号住居跡（北から）



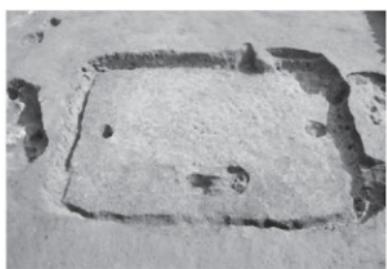
5. H-9号住居跡（北から）



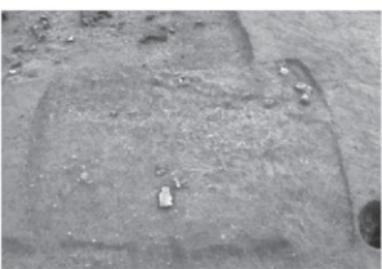
2. H-7号住居跡（西から）



6. H-10号住居跡（西から）



3. H-8号住居跡（西から）



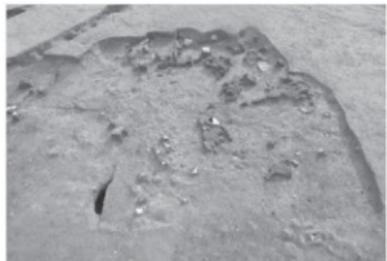
7. H-13号住居跡（西から）



4. H-8号住居跡（西から）



8. H-13号住居跡（西から）



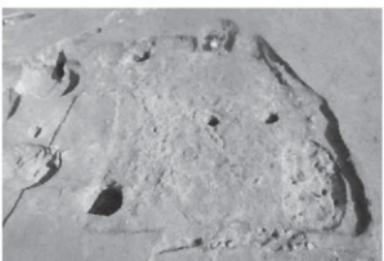
1. H-11・12号住居跡（西から）



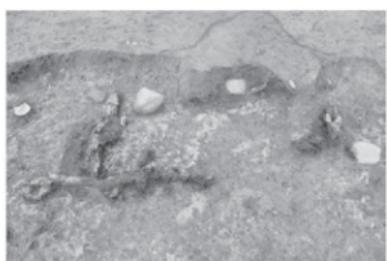
5. H-11号住居跡炭化材（東から）



2. H-11号住居跡（西から）



6. H-11号住居跡（西から）



3. H-11号住居跡（西から）



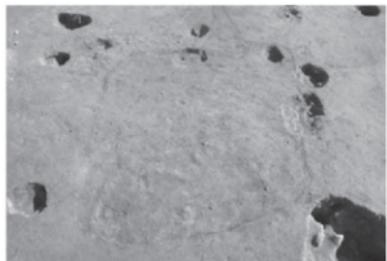
7. H-11号住居跡竈（西から）



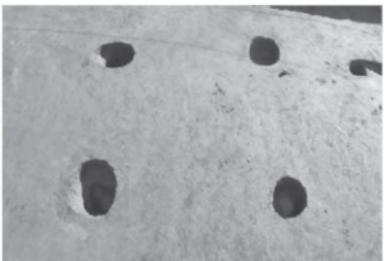
4. H-11号住居跡（北から）



8. H-11号住居跡竈（西から）



1. H-14号住居跡（西から）



5. B-1号掘立柱建物跡（北から）



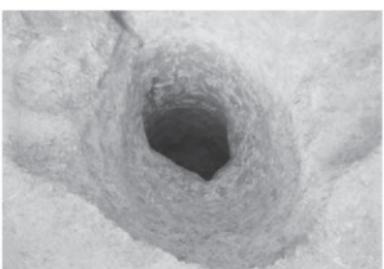
2. H-14号住居跡竈（西から）



6. I-1号井戸跡（南から）



3. H-15号住居跡（西から）



7. I-2号井戸跡（東から）



4. H-15号住居跡竈（西から）



8. H-11号住居跡作業スナップ（北西から）



1. W-1号溝跡（北から）



5. W-6号溝跡（北西から）



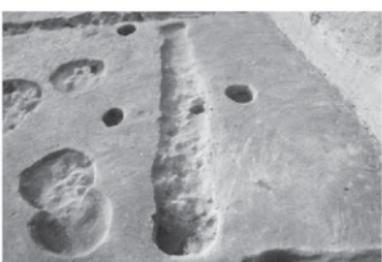
2. W-9号溝跡（北から）



6. W-7号溝跡（北から）



3. W-5号溝跡（北から）



7. W-2号溝跡（東から）



4. W-8号溝跡（北から）



8. W-3号溝跡（北から）



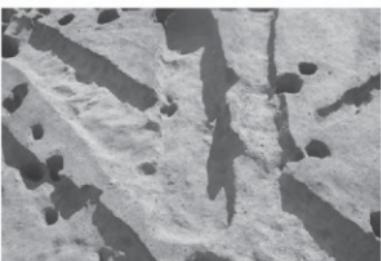
1. W-10号溝跡（南から）



5. W-15号溝跡（北から）



2. W-14号溝跡（北西から）



6. D-122号土坑（北から）



3. W-11・12・19・21号溝跡（北西から）



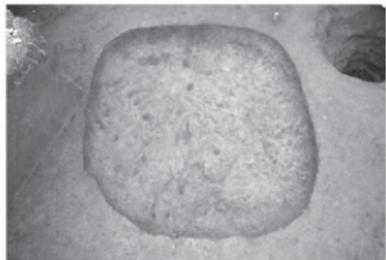
7. DB-1号土壤墓（北から）



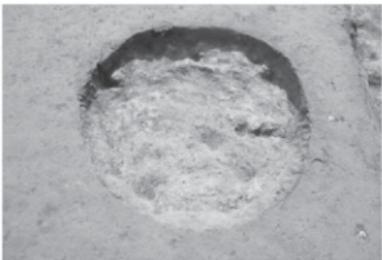
4. W-13号溝跡（東から）



8. DB-1号土壤墓（北から）



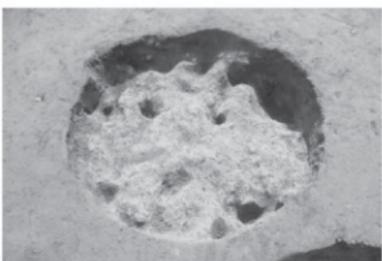
1. D-103号土坑（東から）



5. D-4号土坑（北から）



2. D-1号土坑（北から）



6. D-5号土坑（北から）



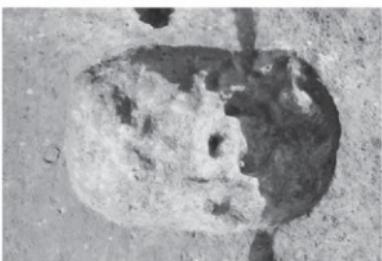
3. D-32号土坑（北から）



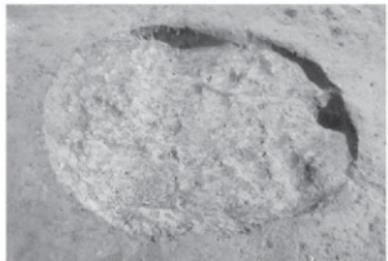
7. D-13号土坑（東から）



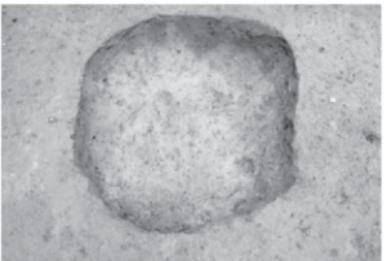
4. D-111号土坑（南から）



8. D-49号土坑（西から）



1. D-21号土坑（西から）



5. D-107号土坑（南から）



2. D-31号土坑（東から）



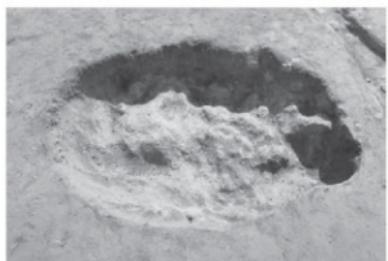
6. D-109号土坑（南から）



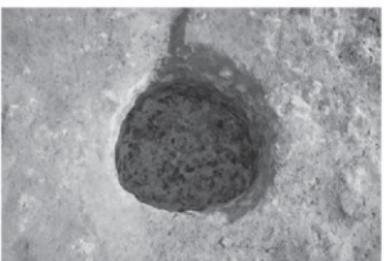
3. D-16号土坑（北から）



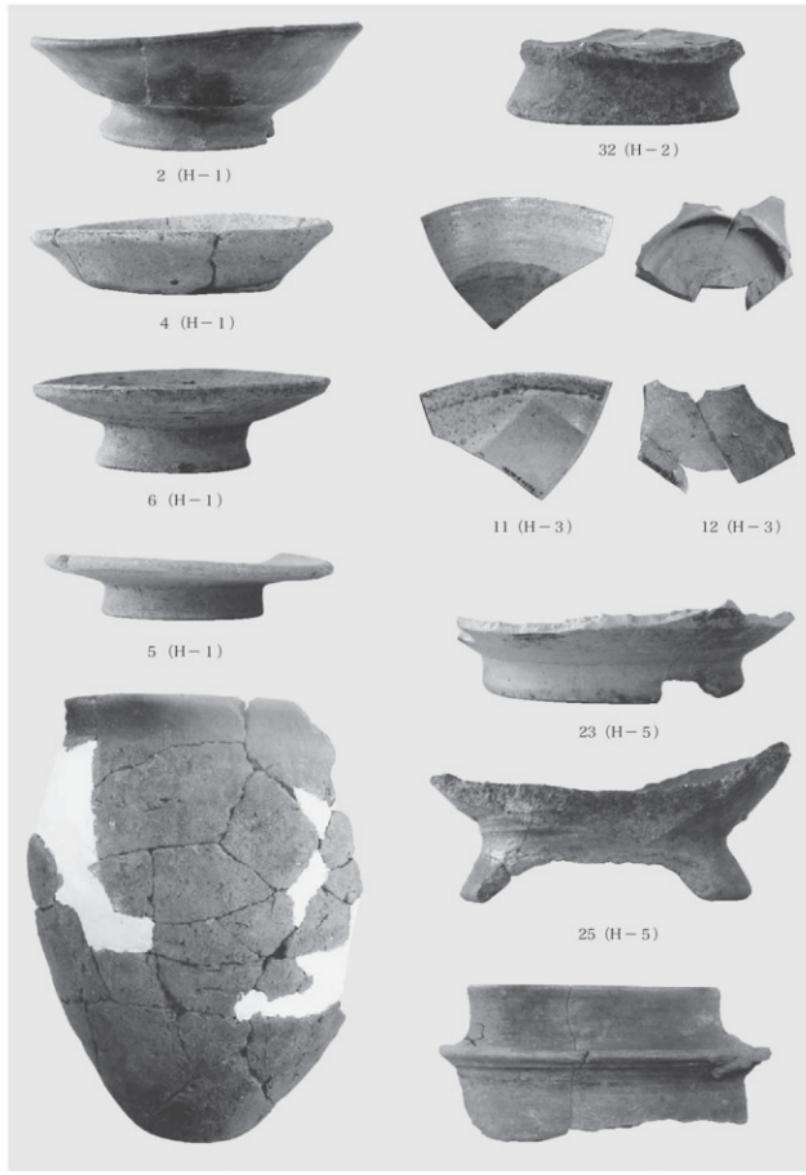
7. D-57号土坑（西から）

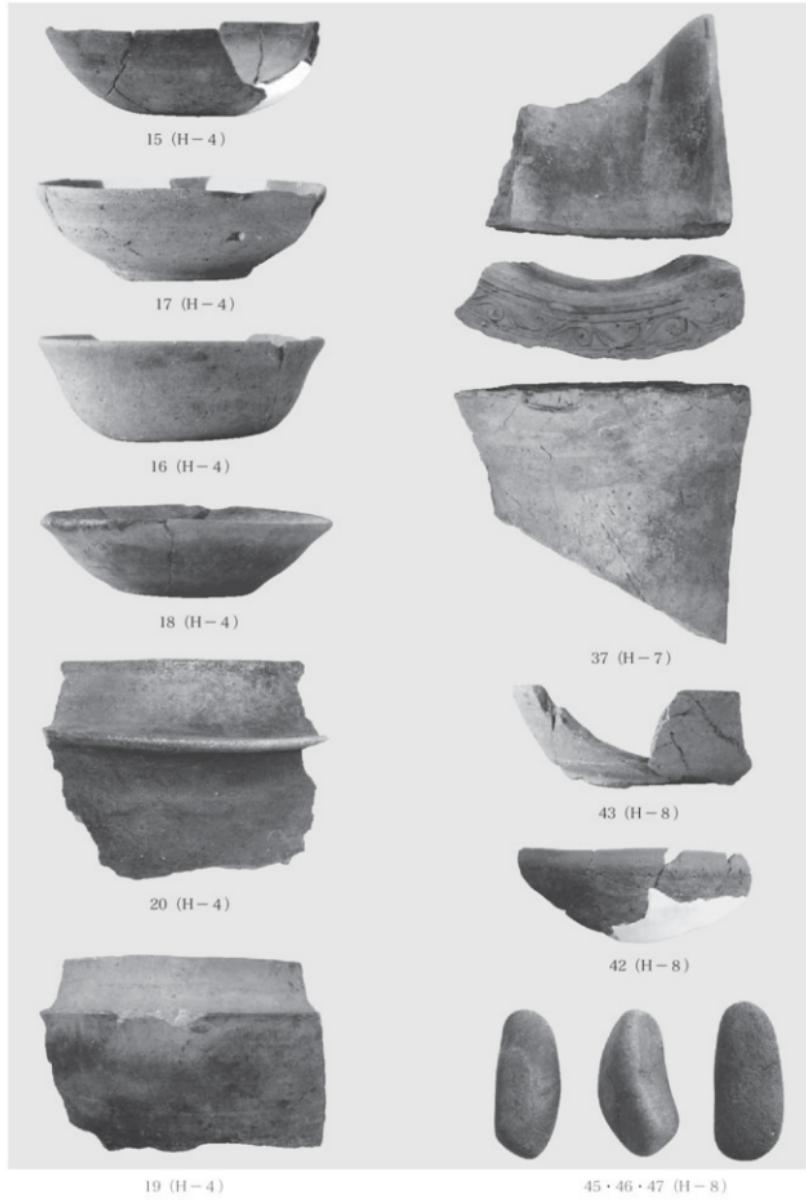


4. D-18号土坑（北から）

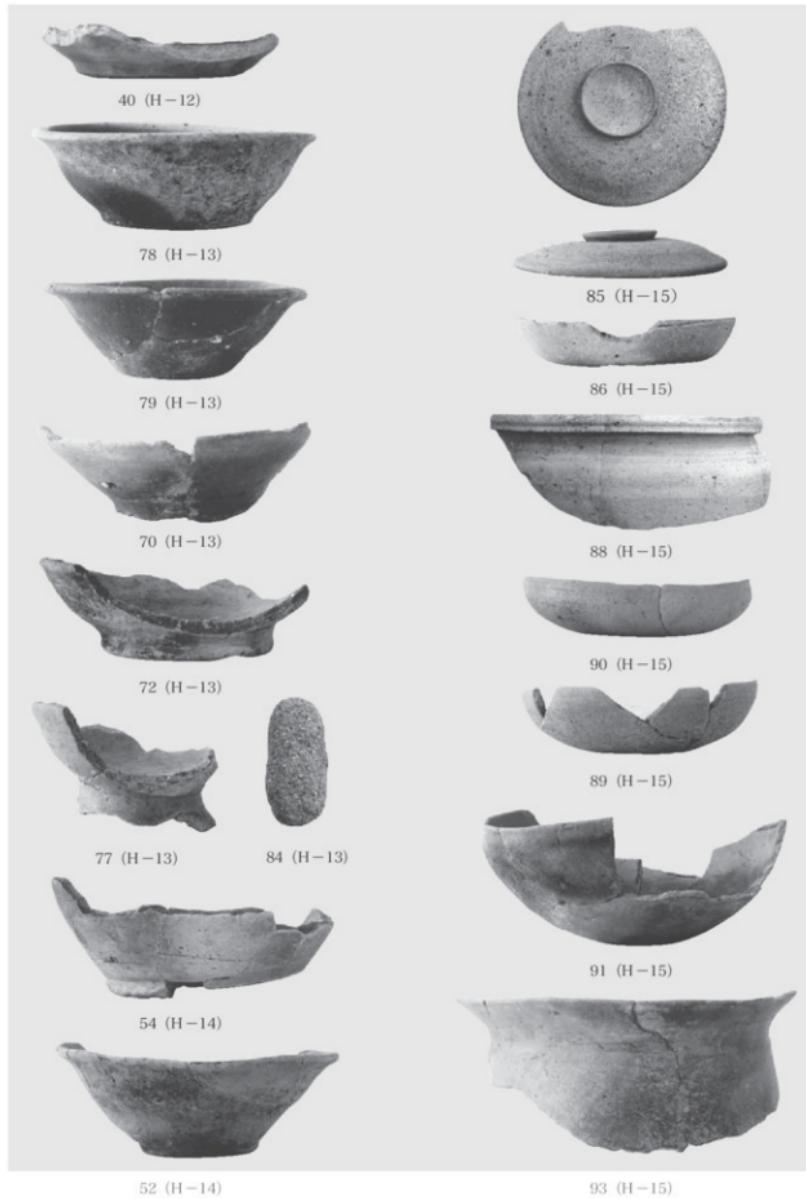


8. D-48号土坑（西から）









報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン15						
書名	元総社蒼海遺跡群(15)						
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名							
編著者名	梅沢克典・瀬田哲夫						
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団・技術測量設計株式会社						
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団						
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2						
発行年月日	西暦2008年2月21日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
元総社 蒼海遺跡群(15)	ぐんまけん 前橋市 元総社町 1757-1番 ほか3筆	10201	19A130 -15	36°23'23" 139°01'58"	20071006 20071126	1,410m ²	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
元総社蒼海遺跡 群(15)	集落跡 墓跡 その他	奈良・平安 中世 近世	堅穴住居跡15軒 掘立柱建物跡1棟 溝20条 井戸2基 土壙墓1基 土坑81基 ビット221口	縄文土器、土師器、須恵器、 灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、 中世・近世陶磁器 他		なし	

元総社蒼海遺跡群(15)

2008年2月21日 印刷
2008年2月21日 発行

編集発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印刷所 朝日印刷工業株式会社